

知的障がいのある児童生徒のための  
各教科の指導の充実  
～授業づくりのポイント&実践事例集～



令和3年2月  
福島県特別支援教育センター



## はじめに

平成29年4月、特別支援学校の学習指導要領が改訂されました。今回の改訂では、小・中学校等に準じた改善や、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、小・中学校等の教育課程との連続性を重視した改善が図られました。知的障がいのある児童生徒のための各教科の整理・充実もその一つです。新しい時代の中で、障がいのある児童生徒が、自己のもつ能力や可能性を最大限に発揮し、自立し社会参加するために必要な力を培うための教育の充実が求められています。

当センターでは、平成30年度～令和2年度の3年間にわたり、教育研究「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校の各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～」に取り組んできました。

県内の特別支援学校（知的障がい）10校に御協力いただき、研究協力校連絡協議会や各研究協力校との授業研究などを通して、知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の在り方について検討を重ねてきました。

新しい学習指導要領の理解啓発から始まり、資質・能力を育成するための各教科の指導と評価はどうあるべきか、日々の授業改善だけでなく、単元計画や年間指導計画、教育課程等の工夫改善など、各研究協力校において様々な取組が行われてきました。

本冊子は、第1章「授業づくりのポイント」と第2章「実践事例集～各教科の指導と評価10事例～」で構成しています。第1章では、研究協力校とのこれまでの取組から得られた授業づくりのポイントを改めて整理するとともに、第2章では、研究協力校における各教科の指導の実践事例を集めて紹介しています。

知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校で日々の授業づくりに尽力されている全ての先生方に、新しい学習指導要領を踏まえたこれからの授業づくりを考えるヒントとして、お役に立てていただければ幸いです。

これからの時代を生きるすべての子どもたちの

学ぶ喜びと、豊かな人生につながることを願って

## 目 次

はじめに

### 第1章 授業づくりのポイント

1	知的障がいのある児童生徒のための各教科	1
2	各教科の指導の充実に向けたポイント	3
	ポイント① 児童生徒一人一人の学ぶ内容を明確にする	3
	ポイント② 各教科の資質・能力を育む授業をつくる	5
	ポイント③ 授業における学習評価の充実	9
3	各教科等を合わせて指導を行う場合の留意点	11
4	カリキュラム・マネジメントを踏まえた指導計画の工夫	13
5	知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導 Q & A	15
	引用・参考文献	17

### 第2章 実践事例集～各教科の指導と評価10事例～

☆	実践事例集の見方	18
事例①	小学部 生活科 (福島県立西郷支援学校)	20
事例②	小学部 国語科 (福島県立会津支援学校)	22
事例③	小学部 算数科 (福島県立富岡支援学校)	24
事例④	小学部 図画工作科 (福島県立たむら支援学校)	26
事例⑤	中学部 国語科 (福島県立猪苗代支援学校)	28
事例⑥	中学部 理科 (福島県立大笹生支援学校)	30
事例⑦	中学部 保健体育科 (福島県立あぶくま支援学校)	32
事例⑧	中学部 職業・家庭科 (福島県立相馬支援学校)	34
事例⑨	高等部 社会科 (福島県立石川支援学校)	36
事例⑩	高等部 職業科 (福島県立いわき支援学校)	38

おわりに

#### 【「障がい」の表記について】

本県では、第2次福島県障がい者計画において、障がいの「害」という漢字の表記について、「障がい」「障がい者」という表記に改めるとともに、可能なところから見直すこととしており、法令上やむを得ないものなど以外、極力「障がい」「障がい者」という表記を用いています。

---

# 第1章 授業づくりのポイント

---



# 1 知的障がいのある児童生徒のための各教科

特別支援学校の学習指導要領には、知的障がいのある児童生徒のための各教科\*の目標や内容が示されています。国語科や算数科で学ぶ内容には、次のようなものがあります。

“身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること”  
“具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること”

このように、日常生活で人やものとかかわる経験そのものが、知的障がいのある児童生徒にとっては大切な学びであり、各教科の指導に当たっては、知的障がいという特性を十分に理解して、児童生徒が各教科の見方・考え方を働かせる場面を日常生活の中に意図的に設けながら、資質・能力を育んでいく必要があります。

## 知的障がいについての理解と特別支援学校の学習指導要領に示す各教科

特別支援学校の学習指導要領では、知的障がいのある児童生徒に対して、発達期における知的機能の障がいを踏まえ、児童生徒が自立し社会参加するために必要な資質・能力を身に付けることを重視し、各教科の目標や内容等を段階別に示しています。学年ではなく、段階別に示しているのは、発達期における知的機能の障がいも同一学年であっても大きく個人差があり、児童生徒一人一人の学力や学習状況も異なるためです。段階を設けて示すことで、個々の児童生徒の実態等に応じた効果的な指導ができるようにしています。

### 【知的障がいについて】

**知的障がいとは、知的機能の発達に明らかな遅れと、適応行動の困難性を伴う状態が、発達期に起こるものを言う。**

#### 「知的機能の発達に明らかな遅れ」

認知や言語などに関わる精神機能のうち、情緒面とは区別される知的面に、同年齢の児童生徒と比較して平均的水準より有意な遅れが明らかな状態。

#### 「適応行動の困難性」

他人との意思の疎通、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていないことであり、適応行動の習得や習熟に困難があるために、実際の生活において支障をきたしている状態。

#### 「伴う状態」

「知的機能の発達に明らかな遅れ」と「適応行動の困難性」の両方が同時に存在する状態。

#### 「適応行動の面での困難さ」

#### 概念的スキルの困難性

□言語発達  
(言語理解、言語表出能力など)

□学習技能  
(読字、書字、計算、推論など)



#### 社会的スキルの困難性

□対人スキル  
(友達関係など)

□社会的行動  
(社会的ルールの理解、集団行動など)



#### 実用的スキルの困難性

□日常生活習慣行動  
(食事、排泄、衣服の着脱、清潔行動など)

□ライフスキル  
(買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など)

□運動機能  
(協調運動、運動動作技能、持久力など)



参考：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月

\* 本冊子では、特別支援学校の学習指導要領に示される「知的障害者である児童（生徒）に対する教育を行う特別支援学校の各教科」を、「知的障がいのある児童生徒のための各教科」と表記しています。

## 各教科の各段階の捉え方

知的障がいのある児童生徒のための各教科は、小学部1～3段階、中学部1～2段階、高等部1～2段階に整理されています。

【知的障害者である児童（生徒）に対する教育を行う特別支援学校 各教科 各段階の捉え方】			
※ 必要に応じて設けることができる教科			
小学部	生活 国語 算数 音楽 図画工作 体育	1段階	○知的障がいの程度は、比較的強く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助を必要とする者を対象とした内容。 ○教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をもったりすることや基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをねらいとする。
		2段階	○知的障がいの程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容。 ○1段階を踏まえ、主として教師からの言葉掛けによる援助を受けながら、教師が示した動作や動きを模倣したりするなどして、目的をもった遊びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けることをねらいとする。
		3段階	○知的障がいの程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られ、適宜援助を必要とする者を対象とした内容。 ○2段階を踏まえ、主として児童が自ら場面や順序などの様子に気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を身に付けることをねらいとする。
中学部	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 職業・家庭 外国語※	1段階	○小学部3段階を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として経験の積み重ねを重視し、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容。 ○主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり、順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てることをねらいとする。
		2段階	○中学部1段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てる内容。 ○主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり、処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付けられるようにしていくことをねらいとする。
高等部	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 職業 家庭 外国語※ 情報※	1段階	○中学部2段階やそれまでの経験を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などとの関連を考慮した、基礎的な内容。 ○主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣、社会性及び職業能力等を身に付けられるようにしていくことをねらいとする。
		2段階	○高等部1段階を踏まえ、比較的障がいの程度が軽度である生徒を対象として、卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などとの関連を考慮した、実用的かつ発展的な内容。 ○主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等を習得することをねらいとする。

参考：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月  
特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）平成31年2月

## 知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実のために

知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導に当たっては、特別支援学校の学習指導要領の各教科の段階の内容に基づいて、児童生徒一人一人の実態に応じた具体的な指導内容を設定していく必要があります。

当センターでは研究協力校との実践研究を通して、指導の充実に向けたポイントを下記のようにまとめました。次のページから、それぞれのポイントについて詳しく紹介していきます。

### 「知的障がいのある児童生徒のための各教科～各教科の指導の充実に向けたポイント～」

- ポイント① 児童生徒一人一人の学ぶ内容を明確にする
- ポイント② 各教科の資質・能力を育む授業をつくる
- ポイント③ 授業における学習評価を充実させる

## 2 各教科の指導の充実に向けたポイント

ここでは、当センターが研究協力校との実践研究を通してまとめた、知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実に向けた三つのポイントについて詳しく解説していきます。

### ポイント① 児童生徒一人一人の学ぶ内容を明確にする

知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定することになります。そのためには、児童生徒一人一人の実態把握に努め、これまでの学習で「何を学び、何が身に付いたのか」といった各教科の学習状況について把握し、学ぶ内容を明確にして指導することが大切です。

#### 児童生徒の学習状況を整理・把握する ～「学びの履歴」シート～

当センターでは、児童生徒一人一人の学ぶ内容を明確にするための一つのツールとして、「学びの履歴」シートを提案しています。このシートは、特別支援学校の学習指導要領に基づいて、各教科の学習状況を整理・把握し、日々の授業に生かしたり、学習した内容を記録したりして、児童生徒の「学びの履歴」をつなぐことを目指しています。

「学びの履歴」シート			
<p><b>「学びの履歴」 教科一覧</b></p> <p>※ 当該学部で学習する教科の内容を一覧で示しています。</p>	<p>01. 小学部 教科一覧 02. 中学部 教科一覧 03. 高等部 教科一覧</p>	<p>学習した内容の習得状況を一年ごとに整理し、全体が確認できるシートです。</p>	
<p><b>「学びの履歴」 各教科</b></p> <p>※ 各教科の目標と内容の指導事項を示し、学年ごとに、習得状況を記入する欄を設けています。</p>	<p>小学部</p> <p>01. 生活 02. 国語 03. 算数 04. 音楽 05. 図画工作 06. 体育 07. 外国語活動 08. 別紙様式</p> <p>※外国語科と関連するため、外国語活動も掲載しています。</p>	<p>中学部</p> <p>01. 国語 02. 社会 03. 数学 04. 理科 05. 音楽 06. 美術 07. 保健体育 08-1. 職業・家庭 職業分野 08-2. 職業・家庭 家庭分野 09. 外国語 10. 別紙様式</p>	<p>高等部</p> <p>01. 国語 02. 社会 03. 数学 04. 理科 05. 音楽 06. 美術 07. 保健体育 08. 職業 09. 家庭 10. 外国語 11. 情報 12. 別紙様式</p>
<p>各教科の目標や内容が段階ごとに1枚のシートで確認できます。</p>			

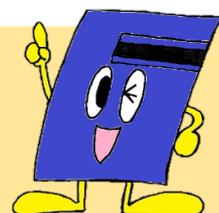
当センターの「学びの履歴」シート（小学部・中学部・高等部）の各様式（PDF版とWord版）と、その記入例を下記のWebサイトに掲載しています。必要なところをダウンロードしてご活用ください。

検索

福島県特別支援教育センター



<https://special-center.fcs.ed.jp/>



## 各教科と自立活動との関連を整理する

障がいのある児童生徒は、その障がいによる学習上、生活上の困難さから、各教科の資質・能力の育成につまずきが生じることがあります。このとき大切なのが自立活動です。自立活動は、心身の調和的発達に基盤に着目して指導するものであり、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。

各教科と自立活動は、指導目標や指導内容の設定に至る手続きに違いがあります。個別の指導計画において、各教科と自立活動それぞれの指導目標と指導内容を明確にしていくことが大切です。



各教科等と自立活動との関連についての【イメージ図】  
福島県特別支援教育センター(2018年)

## 「学びの履歴」シートの活用

「学びの履歴」シートを活用し、各教科のどの段階のどの内容がどの程度身に付いているか、児童生徒の各教科の学習状況を整理し把握することで、学ぶ内容を明確にすることができます。年度末などに教科全体の学習状況を振り返ることで、年間指導計画などの見直しにも参考にすることができます。

**「学びの履歴」シートの記入に当たって**  
学習した内容には「○」、学習した内容をおおむね習得している場合は「◎」を記入します。まだ取り扱っていない内容については、空欄にします。

【学びの履歴】小学部 教科一覧

小学部 **4** 学年 氏名 **〇〇 〇〇** 記入日 年 月 日

生活	1 段階	習得状況	2 段階	習得状況	3 段階	習得状況	備考欄
基本的な生活習慣	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
安全	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
日課・予定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
遊び	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
人との関わり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
役割	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
手伝い・仕事	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
金銭の扱い	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
きまり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
社会の仕組みと公共施設	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
生命・自然	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ものの仕組みと働き	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
知識及び技能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
我が国の言語文化	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
思考力・判断力・表現力等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
聞くこと・話すこと	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
書くこと	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
読むこと	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
数量の基礎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
数と計算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
図形	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
測定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

福島県特別支援教育センター 2020

【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89~95参照

小学部(国語) 2 段階

目標	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
知識及び技能						
思考力・判断力・表現力等						
学びに向かう力・人間性等						
内容						
知識及び技能						
思考力・判断力・表現力等						
学びに向かう力・人間性等						

**A 言葉の特徴や使い方**  
 ◎ 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。  
 ◎ 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。  
 ◎ 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に慣れること。

**B 書くこと**  
 ◎ 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。  
 ◎ 簡単な図表や説明を聞き、その指示等に合わせた行動をする。  
 ◎ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。  
 ◎ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。

**C 読むこと**  
 ◎ 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。  
 ◎ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。  
 ◎ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付く。読もうとしたり、表された意味に合った行動をしたりすること。  
 ◎ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。

教科一覧は、その学年での学習状況を全体的に把握するものです。全体のバランスを見ることができるので、教科ごとの授業時数などを見直しする際の参考資料にもなります。

各教科の段階の目標と内容が入った様式です。内容の指導事項にも「○」や「◎」を記入しておくことで、学習した内容がより分かりやすくなります。学年ごとの記入欄があるので、これまでの各教科の学びの履歴が確認できます。

## ポイント② 各教科の資質・能力を育む授業をつくる

各教科に示された資質・能力を育むために、授業において育成を目指す資質・能力を明確にすることや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、授業をつくることが大切です。ここでは、授業づくりの手続きに沿ってそのポイントを紹介します。

### 学習指導要領に示された各教科の資質・能力

学習指導要領では、資質・能力の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って各教科の目標や内容が整理されています。これは、児童生徒にどのような資質・能力の育成を目指すのか、指導のねらいを明確にするための手掛かりとして学習指導要領が活用されやすいようにしたものです。この学習指導要領に示された各段階の内容から、児童生徒の実態に応じて具体的な指導内容を設定し、授業を通して指導することになります。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第2章各教科第1節小学部〔国語〕

#### 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

#### 【第1の目標】

教科全体の目標です。資質・能力の三つの柱で示されています。

#### 2 各段階の目標及び内容

##### ○1段階

##### (1) 目標

- ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。【知識及び技能】
- イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

#### 【各段階の目標】

第1の目標を受けて、さらに具体的な各段階の目標が資質・能力の三つの柱で示されています。

##### (2) 内容

##### 【知識及び技能】

- ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。
  - (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。
- イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。
  - (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。
  - (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。
    - ㉠ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。
    - ㉡ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。
  - (エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。

##### 【思考力、判断力、表現力等】

##### A 聞くこと・話すこと

- 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。
- イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。
- ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。

#### 【各段階の内容】

各段階の目標を達成するために必要な内容が、資質・能力の観点でまとめられています。※教科によって内容のまとめ方が異なっています。

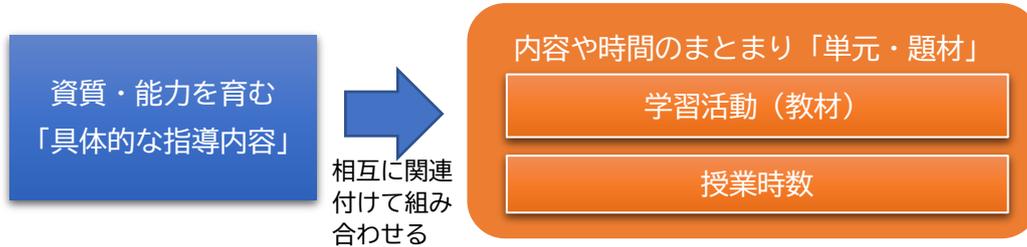
#### 【指導事項】

内容のまとめりにごとに指導すべき事項が示されています。

児童生徒の知的障がいの状態、学習状況、生活年齢、経験等に応じて、「具体的な指導内容」を設定して指導します。

## 単元(題材)の設定

教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なひとまとまりのことを「単元」といいます。教科等の特質によって「題材」としている場合もあります。資質・能力は、児童生徒の学習活動を通して育まれるため、設定した「具体的な指導内容」を相互に関連付けて組み合わせ、単元や題材など内容や時間のまとまりとして設定していくことが重要になります。



## 単元(題材)の目標設定

単元(題材)の目標は、その単元(題材)で育成を目指す資質・能力を表現したものです。具体的な指導内容に沿って、児童生徒の目指す姿を明確にすることで、「どのように指導するか」という手立ての工夫や、「どの程度達成できたか」という評価を明確にすることにつながります。また、学習集団の目標を踏まえて、個別の指導計画に基づいた個別の目標を設定し、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行います。ここでは、単元(題材)の目標設定の手続きの一例を示します。

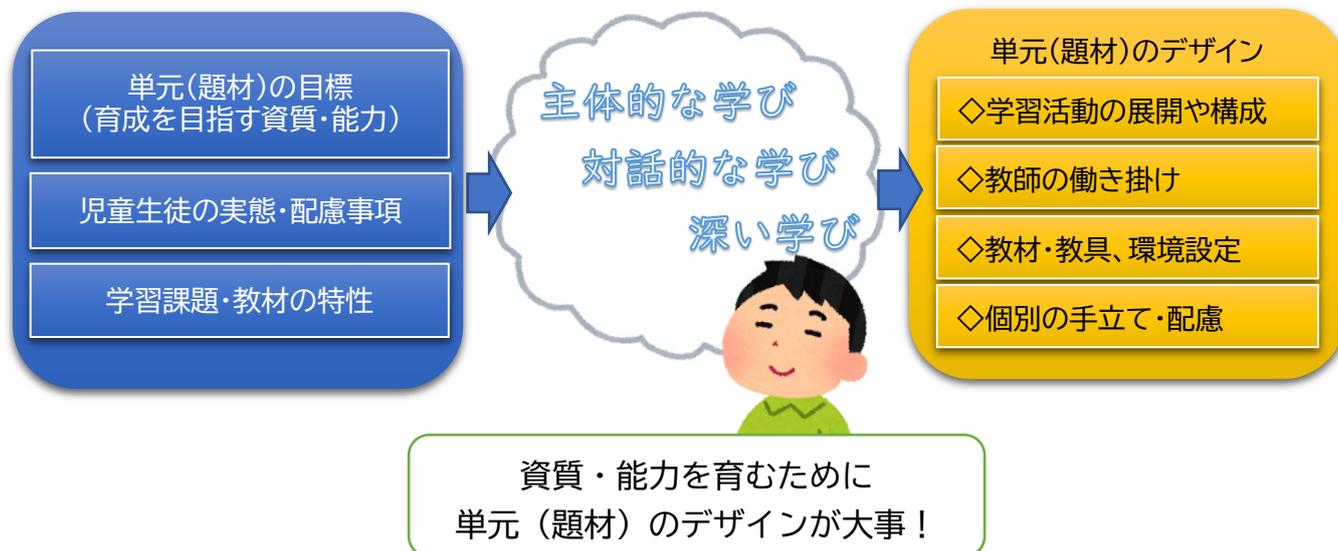
### 単元(題材)の目標設定(例)

①学習指導要領の指導事項を踏まえた「具体的な指導内容」			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学部 学習指導要領 国語科 2段階	イ 我が国の言語文化 (イ) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	Ｃ 読むこと ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	2段階の目標 ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
具体的な 指導内容	絵本の読み聞かせを聞いたり、言葉や動きを模倣したりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	教師と一緒に絵本を見て、登場するものや動作を思い浮かべたり、言葉や動きを模倣したりすること。	※2段階の目標に準じる。
②単元の目標(本単元で育成を目指す資質・能力)			
単元名	「絵本を楽しもう」		総時数 10時間
主な学習活動(教材)	・教師と一緒に絵本を見ながら、読み聞かせを聞いたり、言葉や動きを模倣したりする。(教材「おおきなかぶ」他)		
単元の目標(例)	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	絵本の読み聞かせを聞いたり、言葉や動きを模倣したりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。	教師と一緒に絵本を見て、登場するものや動作を思い浮かべたり、言葉や動きを模倣したりすることができる。	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。
③個別の目標(本単元で育成を目指す資質・能力)			
個別の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習集団の目標を踏まえて、個別の指導計画に基づいた個別の目標を設定します。			

※上記の目標の表し方は一例です。一文にまとめたり、箇条書きにしたりするなど、様々な表し方が考えられます。

## 単元(題材)のデザイン～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

その単元(題材)で目指す資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点から指導方法を検討します。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、「各教科等における優れた授業改善の取組に共通し、かつ普遍的な要素」と言われています。この視点で児童生徒の学ぶ姿を具体的にイメージしながら、具体的な指導の手立てを考え、単元(題材)をデザインしていくことが大切です。



### 主体的・対話的で深い学びの視点と指導の手立て(例)

視 点	指導の手立て(例)
<b>「主体的な学び」</b> 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味や関心がもてるような学習活動や、教材の提示、発問の工夫</li> <li>・ 見通しをもって粘り強く取り組める環境設定</li> <li>・ 学習を振り返る学習活動の設定や、振り返るための教材、言葉掛けの工夫 等</li> </ul>
<b>「対話的な学び」</b> 児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒同士が協働で取り組む学習活動の設定</li> <li>・ 地域資源を活用した学習活動や、地域の人と関わる学習活動の設定</li> <li>・ 自己の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりする学習活動や、環境設定、言葉掛けの工夫 等</li> </ul>
<b>「深い学び」</b> 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」ができてきているかという視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科等の「見方・考え方」を働かせる学習活動の設定や、教材の提示、発問の工夫</li> <li>・ 既知の知識と新しい知識を結び付ける学習活動や、知識を結び付けて考えるための言葉掛けの工夫</li> <li>・ 学んだことを基に自分の考えをもったり、考えを表現したりする学習活動の設定</li> <li>・ 問題を見いだして解決策を考える学習活動の設定</li> <li>・ 思いや考えを基にものを作ったり表現したりする学習活動の設定 等</li> </ul>

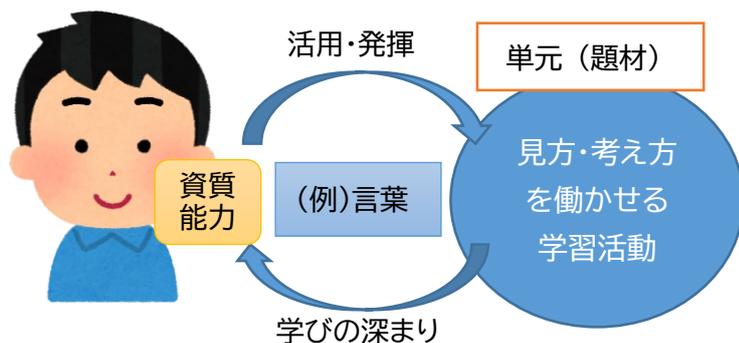
※各視点における指導の手立て(例)は、当センターが例示として作成したものです。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は、児童生徒の実態、学習課題、教材等の特性に応じて様々な工夫が考えられます。授業研究会等を通じて、児童生徒の発達の段階などに応じた学びの在り方や指導方法について学び合い、よりよい授業を目指しましょう。

## 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のキーワード①

### 「各教科等の『見方・考え方』を働かせる学習活動」

学びの深まりの鍵となるのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。「見方・考え方」とは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事の見方や考え方のことです。各教科等で身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮したりして、物事を捉え思考することによって「見方・考え方」が鍛えられていきます。現在や将来の学習や生活の中で「見方・考え方」を働かせることができるよう、学習活動の充実を図っていくことが大切です。



(例)国語科における見方・考え方  
児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること  
(特別支援学校解説各教科等編より)

※イメージ図は、当センターで作成

## 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のキーワード②

### 「単元や題材など内容や時間のまとまり」

主体的・対話的で深い学びは、1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図っていくものです。学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなどを考えて、単元(題材)をデザインしていくことが大切です。

単元(題材)の組み立て方は、「導入→展開→まとめ」など、時間の経過を見通して設定する場合もあれば、決まった流れの活動を毎時間積み重ねながら、発展的に展開していく場合なども考えられます。児童生徒の実態や学習課題の特性等に応じて効果的に資質・能力を育むことができるよう単元(題材)の構成や展開を工夫し、授業の改善・充実を図っていくことが大切です。



## どのように組み立てるか

本資料の第2章実践事例集では、それぞれの実践事例で単元構成や展開、手立ての工夫を「単元(題材)のデザイン」として掲載しています。各教科の資質・能力を育む授業づくりの参考として、ぜひご覧ください。



## ポイント③ 授業における学習評価の充実

各教科の指導の充実のためには、指導と評価の一体化を図り、学習評価を学習や指導の改善に生かすことが大切です。ここでは、学習評価の充実に向けたポイントを紹介します。

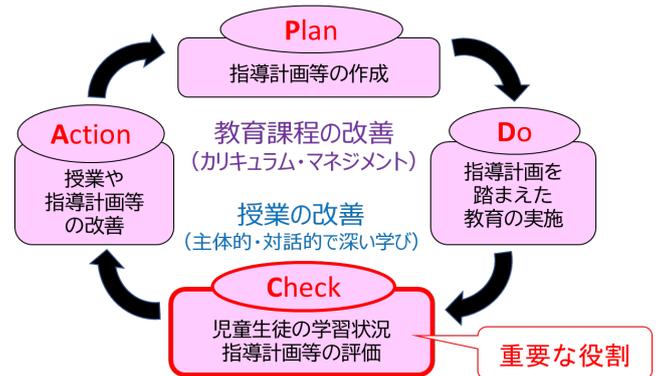
### 学習評価の意義

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。児童生徒の学習状況を的確に捉えることは、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようになるための側面と、教師の指導を改善する側面があります。

児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、児童生徒の主体性や学習意欲を高めていくことができます。

また、カリキュラム・マネジメントや主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を通して資質・能力を確実に育成するためにも重要な役割を果たし、教育課程や授業の改善につながるものです。

今回の学習指導要領の改訂に伴い、知的障がいのある児童生徒のための各教科の学習評価についても観点別学習状況の評価を導入することが示されました。各教科の指導と評価の一体化を図り、授業の質を高めていくためにも学習評価の理解と実践を一層重視する必要があります。



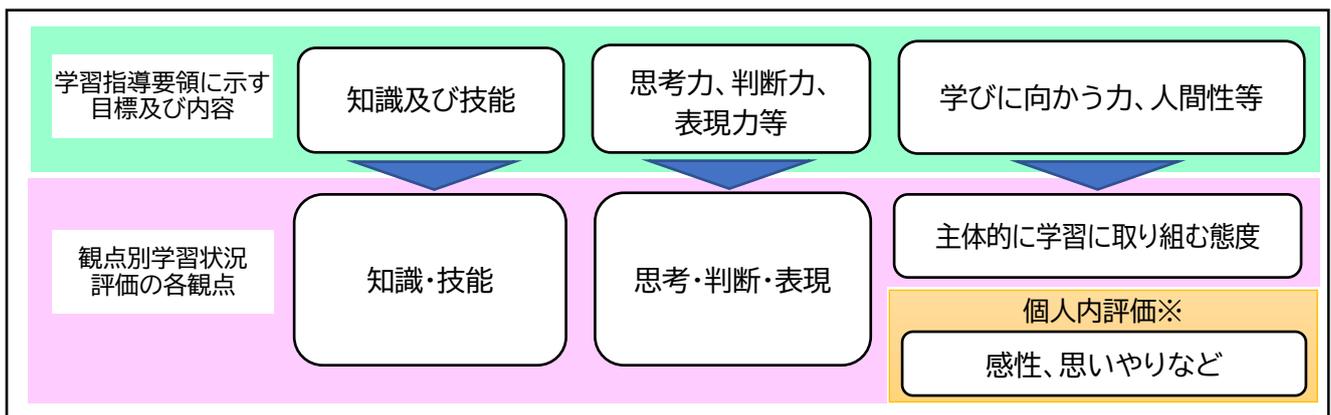
### <知的障がいのある児童生徒のための各教科における学習評価のポイント>

- 観点別学習状況の評価による学習評価を行う。
- 個別の指導計画に基づく学習評価を、指導の改善や教育課程の改善に生かす。
- 組織的かつ計画的な取組を推進し、学年や学校間で学習の成果が円滑に接続されるようにする。

### 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価とは、児童生徒の学習状況について複数の観点からそれぞれの観点ごとに分析する評価のことです。育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価します。

ただし、学びに向かう力・人間性等については、「主体的に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、感性や思いやりなど、観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価として見取る部分があることに留意が必要です。



※「個人内評価」とは、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。

## 評価規準の作成

観点別学習状況の評価を進める際には、学習指導要領に示された目標の実現状況を判断するよりどころとして、観点ごとに評価規準を設定する必要があります。評価規準の作成に当たっては、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料（令和2年4月）」を参考に各学校において作成することになります。



文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」（令和2年4月）  
特別支援学校における学習評価の考え方や「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順と評価規準例などが掲載されています。

文部科学省 HP からダウンロードできます。  
こちらのQRコードをご利用ください。



### 特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料 小学部国語科（一部抜粋）

#### 学習指導要領「(2) 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

(2) 内容	知識及び技能 ア(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	思考力、判断力、表現力等 ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表現や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	学びに向かう力、人間性等 ※指導事項は示されていないため、当該段階目標ウ等を参考に作成する。
内容のまとまりごとの評価規準（例）	知識・技能 ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりしている。 （〔知識及び技能〕ア(イ)）	思考・判断・表現 ・「聞くこと・話すこと」において、教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表現や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりしている。（ア）	主体的に学習に取り組む態度 ・言葉を通じて積極的に人に関わったり、学習の見通しをもって思いをもったりしながら、言葉を使おうとしている。

※各教科によって内容のまとまりの示し方や、観点ごとのポイントが異なります。

## 学習評価の充実に向けた取組

各学校の学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組に努めることが求められます。例えば、評価規準や評価方法を事前に教師同士で検討し明確化することや、評価に関する実践事例を蓄積し共有していくこと、評価結果についての検討を通じて評価に関する教師の力量の向上を図ること、学年会や教科等部会などの校内組織を活用することなどが挙げられます。

授業研究会で学習評価と授業改善を意識して取り組むことも、学習評価の共通理解と推進に効果的であると考えます。特別支援学校では、特に個々の指導や評価が重要になるため、児童生徒の学びの姿をビデオなどで記録し、学びを丁寧に見取りながら評価や授業改善に取り組むことが、評価についての教師の力量向上や共通理解につながると考えます。

### 児童生徒の学習評価と授業改善に向けた授業研究会（例）



映像等を活用して児童生徒の学びの姿を見取り、学習状況の評価や授業の改善策について協議する。

本資料の第2章実践事例集では、それぞれの事例で「観点別学習状況の評価」について記載しています。学習評価の参考として、ぜひご覧ください。



### 3 各教科等を合わせて指導を行う場合の留意点

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、特に必要がある場合に、各教科、道徳科、外国語活動（小学部）、特別活動、自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行うことができます。ここでは、各教科等を合わせて指導を行う場合について、その留意点を示します。

#### 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性と教育的対応

「特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月」には、知的障がいのある児童生徒の学習上の特性として、「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しいこと」が挙げられています。そのため、「実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要」とされています。

こうした知的障がいのある児童生徒の学習上の特性等を踏まえ、児童生徒の学校での生活を基盤に、学習や生活の流れに即して学んでいく指導の形態として、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などの「各教科等を合わせた指導」が実践されています。

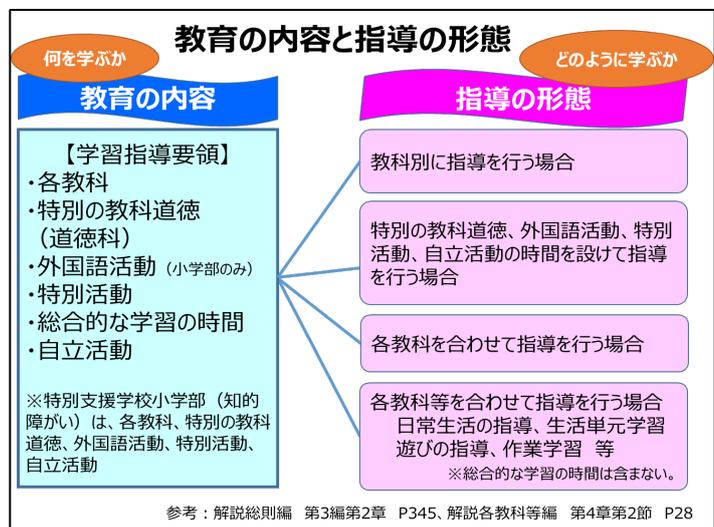
#### 教育の内容と指導の形態

学習指導要領には、「教育の内容」として、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動が示されています。これらの内容は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならないとされています。（小学部・中学部学習指導要領第1章第3節第3の(1)）

特別支援学校においては、この「教育の内容」について、教科等別に指導を行う他、特に必要がある場合には、各教科等を合わせて指導を行うなど、効果的な「指導の形態」を選択して指導することができます。

つまり、「各教科等を合わせた指導」は、「指導の形態」の一つであり、取り扱う指導内容は、学習指導要領に示された各教科等を基にしたものになります。

指導計画や時間割では、「指導の形態」で表記されることが多く、「教育の内容」と「指導の形態」が混同しやすいため、特別支援学校における指導においては、「教育の内容」と「指導の形態」の関係を理解することが必要です。



#### 各教科等を合わせて指導する場合の指導と評価

各教科等を合わせて指導する場合は、特別支援学校の学習指導要領に示された各教科等の内容を基に、児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的な指導内容を設定して指導することになります。つまり、各教科等を合わせて指導する場合も、各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、指導を行うことが大切になります。

また、評価においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行い、授業の改善や教育課程の改善につなげていくことが大切です。

## 「各教科等を合わせた指導」の特徴と取り扱われる各教科等

「各教科等を合わせた指導」は、各教科等の内容を広範囲に取り扱うこととなりますが、それぞれの代表的な形態の特徴から、生活科や職業・家庭科など、中心的に取り扱う教科があることに留意が必要です。各学校において設定した具体的な指導内容について、「各教科等を合わせた指導」それぞれの特徴を踏まえて、学習活動を展開していくことが大切です。

「各教科等を合わせた指導」とその特徴	各教科等の取扱い
<p><b>「日常生活の指導」</b>                      児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものである。</p> <p>例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的な生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守る、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容である。</p>	<p>・生活科を中心として、特別活動〔学級活動〕など広範囲に各教科等の内容が扱われる。</p>
<p><b>「遊びの指導」</b>                      主に小学部段階において、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくものである。</p> <p>遊びの指導の成果を各教科別の指導につながるようにすることや、諸活動に向き合う意欲、学習面、生活面の基盤となるよう、計画的な指導を行うことが大切である。</p>	<p>・生活科の内容をはじめ、体育科など各教科等に関わる広範囲の内容が扱われる。</p>
<p><b>「生活単元学習」</b>                      児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。</p> <p>生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である。</p>	<p>・広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。</p>
<p><b>「作業学習」</b>                      作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。</p> <p>作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。</p>	<p>・中学部では職業・家庭科の目標及び内容が中心となるほか、高等部では職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容が取り扱われる。</p>

※参考：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月

## 「教科別の指導」との関連

教科ごとの時間を設けて指導を行う場合は、「教科別の指導」と呼ばれています。各教科の指導は、「教科別の指導」や「各教科等を合わせた指導」などの特徴を生かして、児童生徒の学習成果が最大限に期待できる効果的な指導の形態を柔軟に考えることが重要です。「教科別の指導」で学んだことを、「各教科等を合わせた指導」で発展的に取り扱ったり、逆に「各教科等を合わせた指導」で学んだことを、「教科別の指導」で深めたりするなど、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」の内容間の関連を図るように工夫して、各教科の資質・能力を育成することが大切です。

### ＜各教科等を合わせた指導の留意点＞

- 「教育の内容」を効果的に指導するための「指導の形態」であることを留意する。
- 「各教科等を合わせた指導」の特徴を理解し、効果的な指導方法を工夫する。
- 「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」の内容間の関連を図って指導する。

## 4 カリキュラム・マネジメントを踏まえた指導計画の工夫

カリキュラム・マネジメントとは、「教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」です。特別支援学校においては、下記の四つの側面を通して、教育課程のP（計画）－D（実施）－C（評価）－A（改善）サイクルを循環させることが大切になります。

### カリキュラム・マネジメントの四つの側面(特別支援学校)

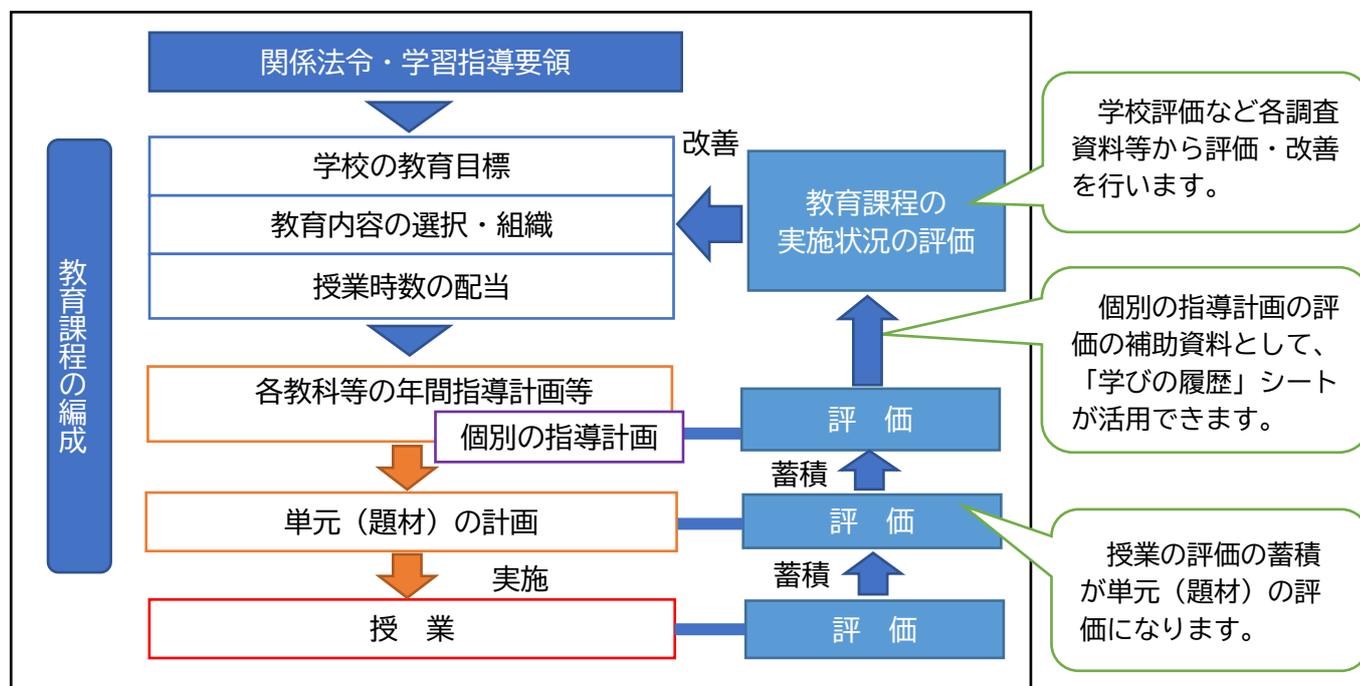
- ア 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- イ 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ウ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- エ 個別の指導計画の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと

ここでは、授業づくりの基盤となるカリキュラム・マネジメントを踏まえて、各教科の指導計画を作成する際に工夫したいポイントについて紹介します。

### 教育課程の編成及び評価

各学校における教育課程は、学校の教育目標の実現に必要な教育内容を選択・組織し、それに必要な授業時数を定めて編成します。その教育課程に基づき、各種指導計画が作成され、実施し、評価を行うこととなります。このような教育課程と指導計画及び評価の仕組みについて、学校全体で共通理解を図り、教員一人一人が教育課程の編成や評価に関わることが重要です。

学校でどのような資質・能力の育成を目指すのか、また、教科等横断的な視点で各指導計画をどのように工夫するのか、これまでの評価結果等を基にしながら、具体的に検討する場を適切に設けるとともに、手続きやスケジュールについて明確にして進めることが大切です。



図「教育課程の編成及び評価」特別支援学校学習指導要領解説総則編を参考に当センターが作成

学年会や教科部会、教育課程の評価・改善の機会等、各教員が意見を出し合える場や方法を工夫し、教育課程及び指導計画の工夫・改善を図っていきましょう。



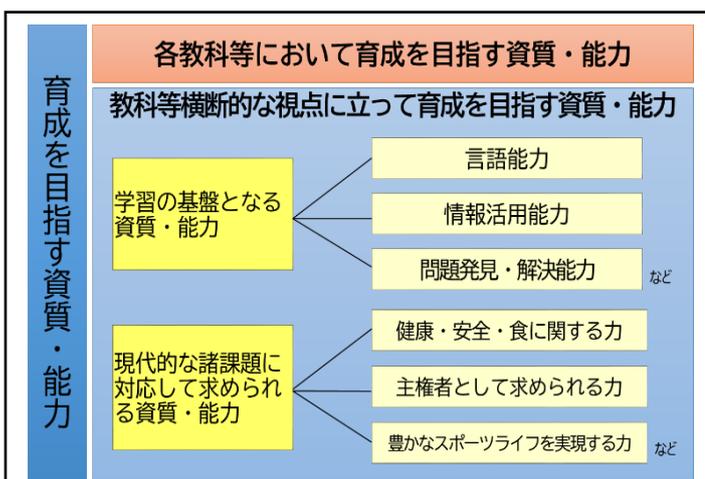
## カリキュラム・マネジメント踏まえた指導計画のキーワード①

### 「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」

学習指導要領では、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の「学習の基盤となる資質・能力」の育成や、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の育成が示されました。各学校においては、これらの「教科等横断的な視点に立った資質・能力」について、児童生徒や学校、地域の実態並びに児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮して、学校の特色を生かしながら目標や指導の重点を計画し、教育課程を編成・実施していくことが求められています。

各教科等の指導に当たっては、学校の教育目標の実現に向けた各教科等の位置付けを踏まえながら、教科等ごとの枠の中だけでなく、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他教科等における指導との関連付けを図って幅広い場面で活用する力を育んだりすることも重要となります。

各学校で育成を目指す資質・能力を明確にし、教科等横断的な視点で、教育課程全体を見渡した各指導計画を工夫することが大切です。



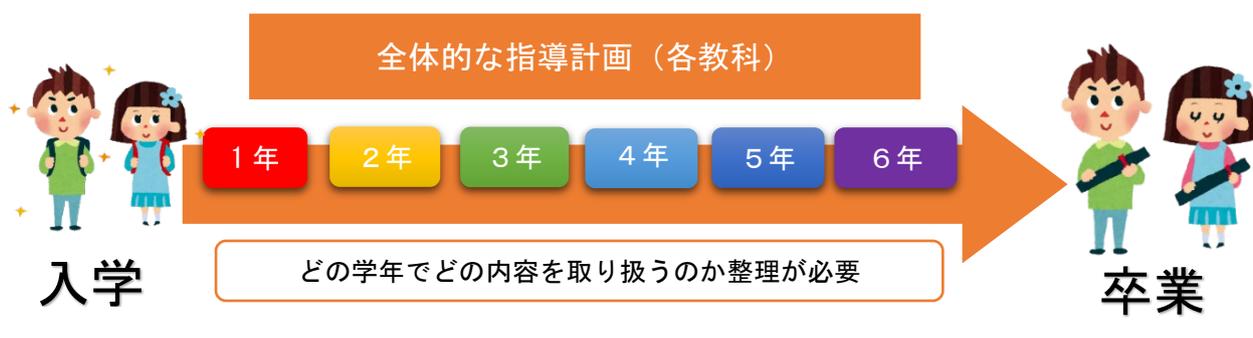
令和2年度福島県特別支援教育センター研究発表会  
文部科学省 特別支援教育調査官 菅野和彦氏 教育講演会資料より

## カリキュラム・マネジメントを踏まえた指導計画のキーワード②

### 「全体的な指導計画」

「全体的な指導計画」は、各教科の内容に示されている項目について、小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間を見通しながら、指導内容を配列したものです。各学校においては、この「全体的な指導計画」に基づいて、各学年の指導計画を作成することになります。

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校では、児童生徒の実態に応じて教育課程を編成するため、あらかじめ学年ごとに指導内容が決められているわけではありません。各学校の教育課程に基づいて、各教科の「全体的な指導計画」を作成し、卒業までを見通して、どの学年でどの内容を取り扱うのか、整理しておく必要があります。系統的かつ偏りなく各教科の内容が取り扱えるように教師間で十分検討し、学校内で共有することが大切です。



## 5 知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導 Q & A

Q1. 各教科の内容は、これまでも各教科等を合わせた指導の中で扱ってきました。これまでと何が違うのですか？

A1. 取り扱う各教科の目標や内容そのものが、これまでのものと違っていています。特別支援学校の学習指導要領に示す各教科は、学ぶ内容が質的にも量的にも大きく変化しました。小・中学校等との学びの連続性が重視されたためです。

### 特別支援学校小学部の場合（国語科 3段階の内容）

学習指導要領（H21）	学習指導要領（H29）
(1) 身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。	〔知識及び技能〕 ア 言葉の特徴や使い方に関する事項 (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)
(2) 見聞きしたことなどのあらまじや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。	イ 話や文章に含まれる情報の扱い方に関する事項 (ア)(イ)
(3) 簡単な語句や短い文などを正しく読む。	ウ 我が国の言語文化に関する事項 (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
(4) 簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する事項 ア、イ、ウ、エ、オ、カ B 書くこと 書くことに関する事項 ア、イ、ウ、エ、オ C 読むこと 読むことに関する事項 ア、イ、ウ、エ

学ぶ内容は量的にも質的にも大きく変化

Q2. 各教科等を合わせた指導の目標は、どのように設定すればいいですか？

A2. 各教科の段階に示す目標や内容に基づいて、指導目標を設定することが大切です。各教科等を合わせて指導を行う場合も、教科別に指導を行う場合と同様に、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う必要があります。

各教科等を合わせた指導は、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う指導の形態です。

学習指導要領では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が偏りなく育成されるように、各教科の目標や内容が整理されています。日々の授業においても、これに基づいて指導目標や評価規準を設定していくことが大切です。

Q3. 知的障がいのある児童生徒の場合、各教科と自立活動との関連をどのように考えればいいですか？

A3. 知的障がいのある児童生徒は、顕著な発達の遅れや、特に配慮を必要とする様々な状態が知的障がいに随伴して見られます。各教科を履修する中で、学習上の困難さがある場合は、自立活動の指導を効果的に行う必要があります。

自立活動の指導は、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 第3章の2の(4)」には、知的障がいのある児童生徒のための各教科と自立活動との関連を示した具体例がありますので、参考にしてください。

Q4. 高等部2学年（重複障がい学級）の生徒です。自立活動を主とする教育課程ですが、各教科はどのように位置付ければよいですか？

A4. 各教科等に替えて自立活動を主とした指導を行う場合は、高等部の在学期間に学校教育として提供すべき教育の内容を卒業後の生活も考慮して十分に検討する必要があります。各教科等に加えて、自立活動を取り扱うことが前提であることを踏まえて、各教科の目標や内容の取り扱いを検討することが大切です。

重複障がい者については一人一人の障がいの状態が極めて多様で、発達の面でも不均衡が大きいです。他の生徒と同様に、各教科等に加えて自立活動を取り扱うことが前提です。障がい重複しているという理由だけで、各教科等の目標や内容を取り扱うことを全く検討しないまま、安易に自立活動を主とした指導を行うことのないように留意する必要があります。なお、道徳科と特別活動については、全部を自立活動に替えることができないことも留意してください。

Q5. 「学びの履歴」シートで学習状況を整理してみたら、扱っていない事項がありました。全部を扱わなければならないのでしょうか？

A5. 特に示す場合を除き、扱っていない事項については、計画的に指導していく必要があります。

学習指導要領に示される各教科等の内容に関する事項は、「特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない」とされています。「特に示す場合」については、第1章総則の第8節「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」に示されています。この場合においても、各学部の系統性や内容の関連に留意する必要があります。

各教科の指導に当たっては、学部全体における指導計画等の工夫も重要です。各教科の段階に示す内容を基に、児童生徒の実態に応じて具体的な指導内容を設定し、計画的に指導する必要がありますからです。

知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものとする。

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」  
第1章第3節の3(1)ク

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、高等部の3年間を見通して計画的に指導するものとする。

「特別支援学校高等部学習指導要領」  
第1章第2節の3(4)オ

Q6. 学習指導要領が改訂され、各教科等を合わせた指導の在り方など、授業づくりについてどのように考えていけばいいのでしょうか？

A6. 今回の改訂では、知的障がいのある児童生徒のための各教科等の目標や内容が整理、充実し、「学びの連続性」を重視した対応がされています。一人一人の児童生徒の資質・能力を最大限に育むために、学習指導要領に示す各教科の段階の目標や内容を踏まえ、授業づくりに取り組んでいくことが大切です。指導の形態の選択も含め、各教科等の指導に当たっては、より効果的な指導方法を工夫していく必要があります。

各教科等を合わせた指導は、指導の形態です。この各教科等とは、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動をさしています。知的障がいのある児童生徒のための効果的な指導方法として広く取り入れられてきた指導の形態ですが、各教科等の目標や内容と関連させた指導と評価が曖昧になりがちなことや、系統的な学習につながりにくいことが、しばしば課題になっていました。これを解決するためには、学習指導要領を基に育成を目指す資質・能力を明確にし、各教科の指導を充実させていくことが大切です。

障がいのある児童生徒が自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うためには、一人一人の障がいの状態等に応じたきめ細かな指導と評価をより一層充実させていく必要があります。

特別支援教育は、現在、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全てにおいて行われるものとなりました。これからの特別支援学校は、児童生徒の「学びの連続性」を築いていくために、学部間だけでなく、学校間のつながりも意識した、「多様な学びの場」の一つとしての取組が求められています。

## 引用・参考文献

- ・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示」
- ・文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示」
- ・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年3月）
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（平成30年3月）
- ・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年3月）
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」（平成31年2月）
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者各教科等編（上）（下）（高等部）」（平成31年2月）
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成21年6月）
- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）
- ・中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）
- ・文部科学省 30文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月29日付 初等中等教育局長通知）
- ・文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」（令和2年4月）
- ・福島県特別支援教育センター「平成31年度 研究紀要 第32号」（平成31年3月）
- ・福島県特別支援教育センター「令和元年度 研究紀要 第33号」（令和2年3月）
- ・福島県特別支援教育センター「『学びの履歴』シート」福島県特別支援教育センターWeb サイト [https://special-center.fcs.ed.jp/page\\_20180405022003](https://special-center.fcs.ed.jp/page_20180405022003)（参照：令和3年1月現在）
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会編著「学習指導要領Q&A 特別支援教育 [知的障害教育]」明官茂監修 東洋館出版社（令和2年3月）

---

## 第2章 実践事例集

～各教科の指導と評価10事例～

---



## ☆ 実践事例集の見方

本実践事例集は、当センターの教育研究にご協力いただいた特別支援学校で取り組まれた実践事例をまとめたものです。特別支援学校学習指導要領に示す各教科の目標及び内容に基づいて、単元（題材）をどのように工夫し、各教科の指導と評価を行うのか、その具体例を示し、知的障がいのある児童生徒のための各教科を指導する多くの先生方に参考にしていただくことを趣旨としています。

特に、次の点が分かるように事例をまとめています。なお、実際の単元（題材）は、より詳細な計画や配慮事項がありますが、要点のみをまとめています。

- （１）本事例で主に取り扱う学習指導要領各教科の内容及び指導事項が分かる。
- （２）本単元（題材）で育成を目指す資質・能力が分かる。
- （３）単元（題材）の主な構成や展開、主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫点が分かる。
- （４）個別の指導と評価が分かる。（児童生徒 1 名を抽出）

### 【事例番号・学部・教科名】

- ・ 本事例の学部と、取り扱う教科の内容が分かるように示しています。
- ・ 学習指導要領に記載されている内容及び指導事項をそのまま抜き出しています。

### 【単元（題材）の概要】

- ・ 単元（題材）の概要が分かるように、指導の形態、単元名、学部・学級、学習グループの人数、総時数、主な学習活動を表記しています。

### 【本単元（題材）で育成を目指す資質・能力】

- ・ 育成を目指す資質・能力が分かるように資質・能力の三つの柱に沿って表記しています。
- ・ [ ] の段階と記号は、学習指導要領の段階と内容の指導事項を表しています。
- ・ 各教科等を合わせた指導でこの他に取り扱いしている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 【学習活動・内容】【時数】

- ・ 単元（題材）における主な学習活動・内容とその流れを表記しています。
- ・ 時数については、計画されたおおよその時数を表記しています。

#### 事例① 小学部・生活科

【小学部生活科2段階】エ 遊び  
教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
(ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしていたりすること。  
(イ) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。

#### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（生活単元学習）		
単元（題材）名	おおかみと7ひきのこやぎ		
学部・学級	小学部1・2年	学習グループ	6名
総時数	13時間（生活11、国語2）		
主な学習活動	「おおかみと7ひきのこやぎ」の物語をもとに、おおかみ役とこやぎ役に分かれてかくれんぼをして遊ぶ。		

#### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
・ かくれんぼの遊び方がわかる。 [小・生活科2段階エ(イ)]	・ 友達を探したり、みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫したりすることができる。 [小・生活科2段階エ(ア)]	・ 友達と関わりながら一緒にかくれんぼをして遊ぶようになる。

※各教科等を合わせた指導でこの他に取り扱いしている教科の資質・能力については記載を省略しています。

#### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 「おおかみと7ひきのこやぎ」のお話を聞く。 ・ 絵本の読み聞かせを聞く。 ・ パネルアターを操作する。	2	○かくれんぼの遊び方をイメージしやすいように、「おおかみと7ひきのこやぎ」のお話を取り上げ、単元開始前の国語の時間に絵本の読み聞かせを行う。また、ごっこ遊びの前に、こやぎのパネルを隠す活動を行う。
2 教室に設置された物を使ってかくれんぼをする。	3	○見えないように隠れることを意識することができるように、単元の途中で隠れる場所を作る活動を設定する。
3 体育館、プレイルームにある器具等を使ってかくれんぼをする。	2	○見えないように隠れることができたかを客観的に振り返る。また、見えないように隠れるためのポイントを児童が互いの姿や言葉から気づくことができるように、児童が隠れている様子をタブレットで撮影し、見ながら気づいたことを話し合う場面を設定する。
4 隠れる場所を作る。 ・ グループに分かれて、段ボールを重ねたり、貼り合わせたりして、隠れる場所を作る。	2	
5 段ボールで作ったものを使ってかくれんぼをする。	4	

### 【主体的・対話的で深い学びの実現のために】

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を踏まえて、本単元（題材）における指導の手立てなどの工夫点を表記しています。

## ページの構成について

本実践事例集では、各教科の指導と評価の概要をつかんでいただくために、1事例につき見開き2ページで構成しています。

### ○1ページ目【単元（題材）の概要】

単元（題材）の基本情報、育成を目指す資質・能力、学習活動・内容等、単元（題材）の主な指導計画を掲載しています。

### ○2ページ目【Aさんの学び】

1ページ目の指導計画に基づいて実施した学習について、抽出した児童生徒の個別の指導目標や配慮事項、観点別学習状況の評価、単元（題材）の振り返りを掲載しています。

### 【Aさんの学び】

- ・ 個別の指導と評価が分かるように、児童生徒1名を抽出して掲載しています。

【Aさんの学び】	
Aさんについて	普段は車椅子を使用しており、床をずり這いで移動することができます。分かることは多く、また、様々な事柄を表現することができるコミュニケーションの力があるが、慣れない人や大きな集団の中では自分を表現することが難しく、自信がないことについてはすぐに諦めることが多い。大人との関わりが中心で、教師とやりとりして遊ぶことが多い。
個別の指導目標	①かくれんぼの遊び方が分かり、おおかみ役やこやぎ役になって遊ぶことができる。 ②みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫しながら遊ぶことができる。 ③友達と関わりながら、かくれんぼをして一緒に遊ぼうとする。
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	・ 隠れやすいように車椅子は使用せず、ずり這いで行く。 ・ 自信をもって自分の考えを発言しやすいような雰囲気づくりに努める。
観点別学習状況の評価	
①かくれんぼの遊び方がわかり、おおかみ役やこやぎ役になって遊んでいる。【知識・技能】	
(写真)	・ おおかみ役では、10数えて「もういいかい。」と言ったり「みつけた」と言ったりしながら、全員みつかるまで友達を探した。 ・ こやぎ役では、おおかみ役の友達が10数えている間に隠れる場所を探して隠れた。
②みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫しながら遊んでいる。【思考・判断・表現】	
(写真)	・ 友達が隠れている姿をタブレットで見て、箱の中に隠れても上部が開いていると見えることに気付く。「屋根を乗せればいい。」と提案した。 ・ 隠れる場面では、箱の中に入り、近くにいる教師に段ボールで隠すように依頼した。
③友達とかかわりながら、かくれんぼをして一緒に遊ぼうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	
・ 友達と一緒に隠れることを好み、友達と相談したり、誘ったりして隠れることが多かった。 ・ 先に友達が隠れている場所に一緒に隠れたいときには、「入れて。」と聞き、「いいよ。」と言われたときには一緒に隠れ、「だめよ。」と言われたときには自分で別の場所を探して隠れた。	
単元（題材）を振り返って	
○考えるポイントを「見えないように隠れる」ことに絞り、タブレットを見ながら考えを整理できるような発問をしたことで、自信をもって自分の考えを発言することができた。 ○単元終了後は、おおかみやこやぎのお面がなくても、休み時間に友達とかくれんぼをして遊ぶ姿が見られた。友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じるためには、遊び方を知ることが大切であり、絵本の内容に沿ったごっこ遊びを行ったことで、遊び方やその中の役割をイメージしやすかったと考える。	
事例提供：福島県立〇〇支援学校（△△ △△）	

### 【Aさんについて】

- ・ 抽出した児童生徒についての実態を簡潔に表記しています。

### 【個別の指導目標】

- ・ 本単元（題材）における個別の指導目標を表記しています。

### 【配慮事項】

- ・ 自立活動との関連を踏まえ、本単元（題材）における個別の配慮事項について表記しています。

### 【観点別学習状況の評価】

- ・ 個別の指導目標を踏まえ、観点別学習状況の評価としての評価規準を表記しています。
- ・ 観点に沿って、文章で具体的な学びの姿を示しています。
- ・ 一単位時間の評価ではなく、本単元（題材）を総括した評価を記載しています。

### 【単元（題材）を振り返って】

- ・ 単元（題材）を振り返って、効果的だった指導や改善が必要な部分について表記しています。
- ・ 観点別学習状況の評価に示しきれない、児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況など「個人内評価」に関することはこちらに表記しています。

## 事例① 小学部 生活科

### 【小学部生活科2段階】エ 遊び

教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。

(イ) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（生活単元学習）		
単元（題材）名	おおかみと7ひきのこやぎ		
学部・学級	小学部1・2年	学習グループ	6名
総時数	13時間（生活11、国語2）		
主な学習活動	「おおかみと7ひきのこやぎ」の物語をもとに、おおかみ役とこやぎ役に分かれてかくれんぼをして遊ぶ。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>かくれんぼの遊び方がわかる。</li> </ul> [小・生活科2段階エ(イ)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達を探したり、みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫したりすることができる。</li> </ul> [小・生活科2段階エ(ア)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と関わりながら一緒にかくれんぼをして遊ぼうとする。</li> </ul>

※各教科等を合わせた指導でこの他に扱っている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 「おおかみと7ひきのこやぎ」のお話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の読み聞かせを聞く。</li> <li>パネルシアターを操作する。</li> </ul>	2	○かくれんぼの遊び方をイメージしやすいように、「おおかみと7ひきのこやぎ」のお話を取り上げ、単元開始前の国語の時間に絵本の読み聞かせを行う。また、ごっこ遊びの前に、こやぎのパネルを隠す活動を行う。 ○見えないように隠れることを意識することができるように、単元の途中で隠れる場所を作る活動を設定する。 ○見えないように隠れることができたかを客観的に振り返る。また、見えないように隠れるためのポイントを児童が互いの姿や言葉から気づくことができるように、児童が隠れている様子をタブレットで撮影し、見ながら気づいたことを話し合う場面を設定する。
2 教室に設置された物を使ってかくれんぼをする。	3	
3 体育館、プレイルームにある器具等を使ってかくれんぼをする。	2	
4 隠れる場所を作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて、段ボールを重ねたり、貼り合わせたりして、隠れる場所を作る。</li> </ul>	2	
5 段ボールで作ったものを使ってかくれんぼをする。	4	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	普段は車椅子を使用しており、床をずり這いで移動することができる。分かることは多く、また、様々な事柄を表現することができるコミュニケーションの力があるが、慣れない人や大きな集団の中では自分を表現することが難しく、自信がないことについてはすぐに諦めることが多い。大人との関わりが中心で、教師とやりとりして遊ぶことが多い。
個別の指導目標	①かくれんぼの遊び方が分かり、おおかみ役やこやぎ役になって遊ぶことができる。 ②みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫しながら遊ぶことができる。 ③友達と関わりながら、かくれんぼをして一緒に遊ぼうとする。
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	・隠れやすいように車椅子は使用せず、ずり這いで行う。 ・自信をもって自分の考えを発言しやすいような雰囲気づくりに努める。

### 観点別学習状況の評価

#### ①かくれんぼの遊び方がわかり、おおかみ役やこやぎ役になって遊んでいる。【知識・技能】



- ・おおかみ役では、10数えて「もういいかい。」と言ったり「みつけた。」と言ったりしながら、全員がみつかるまで友達を探した。
- ・こやぎ役では、おおかみ役の友達が10数えている間に隠れる場所を探して隠れた。

#### ②みつからないように隠れる場所や隠れ方を工夫しながら遊んでいる。【思考・判断・表現】



- ・友達が隠れている姿をタブレットで見て、箱の中に隠れても上部が開いていることに気付き、「屋根を乗せればいい。」と提案した。
- ・隠れる場面では、箱の中に入り、近くにいる教師に段ボールで隠すように依頼した。

#### ③友達と関わりながら、かくれんぼをして一緒に遊ぼうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・友達と一緒に隠れることを好み、友達と相談したり、誘ったりして隠れることが多かった。
- ・先に友達が隠れている場所に一緒に隠れたいときには、「入れて。」と聞き、「いいよ。」と言われたときには一緒に隠れ、「だめよ。」と言われたときには自分で別の場所を探して隠れた。

### 単元（題材）を振り返って

- 考えるポイントを「見えないように隠れる」ことに絞り、タブレットを見ながら考えを整理できるような発問をしたことで、自信をもって自分の考えを発言することができた。
- 単元終了後は、おおかみやこやぎのお面がなくても、休み時間に友達とかくれんぼをして遊ぶ姿が見られた。友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じるためには、遊び方を知ることが大切であり、絵本の内容に沿ったごっこ遊びを行ったことで、遊び方やその中での役割をイメージしやすかったと考える。

事例提供：福島県立西郷支援学校（會田 晃子）

## 事例② 小学部 国語科

### 【小学部国語科3段階】

〔知識及び技能〕ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。

〔思考力・判断力・表現力等〕C 読むこと

ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。

エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	教科別の指導（国語）		
単元（題材）名	おはなしあそびをしよう ～『おいもをどうぞ』～		
学部・学級	小学部3年	学習グループ	3名
総時数	16時間		
主な学習活動	学級でさつまいもを育てた経験から、さつまいもを題材にした絵本の読み聞かせを通して、内容を捉えて絵本の世界を楽しんだり、捉えた内容を実際に演じて絵本に親しんだりする学習活動を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
・絵本に出てくる言葉に注目し、言葉には物事を表す働きがあることやその意味に気付くことができる。 [小・国語科3段階ア（ア）]	・絵本を読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像したり、登場人物になったつもりで演じたりすることができる。 [小・国語科3段階Cア、エ]	・言葉がもつよさを感じるとともに、絵本に親しみ、思いや考えを伝えたり、受け止めたりしようとする。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 絵本を見よう・聞こう ・題名からどんなお話か想像する。 ・絵本の読み聞かせを見る・聞く。 ・学習計画を知る。	1	○児童の実際の生活に根差したイメージしやすいテーマの絵本、場面の移り変わりや展開が捉えやすい絵本を取り扱う。 ○児童が学習に見通しや目標がもてるように、単元の学習過程やゴールを可視化し、児童と共有して単元をスタートする。
2 絵を見てお話の内容を考えよう ・「誰が」、「誰に」、「何をしたか」などを考える。 ・内容をパネルシアターで表現する。	5	○絵本の全体を捉えやすくするために、場面ごとの内容をパネルシアター等で再現しながら読み取りを進めていく。
3 お話遊びをしよう ・好きな場面や登場人物を選ぶ。 ・役を決める。 ・役になりきってお話遊びをする。	6	○学級の集団で学習するよさを生かし、協働して学習ができるように、一人一人が自分の考えをもてるような場面、自分の考えを伝え合う場面を設定する。
4 発表会をしよう ・招待状を作る。 ・予行練習をする。 ・発表会をする。	3	○学んだことを振り返ったり、達成感を感じたりすることができるように単元全体を振り返る時間を設ける。
5 学習を振り返ろう ・発表会の映像を見る。 ・頑張ったことを発表する。	1	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	教師や友達と言葉でやりとりしたい気持ちが強く、語彙も多いが、発音が不明瞭で伝わりにくいことがある。平仮名は一音ずつ読むことができるが、まとまりとして読むことについては学習中である。教師と一緒に絵本を読んだり、登場人物の気持ちを考えたりする活動が好きで、楽しみながら学習に取り組んでいる。
個別の指導目標	①絵本に出てくる言葉の意味が分かり、場面の様子に気付くことができる。 ②挿絵を手掛かりに、登場人物やその様子を想像し、登場人物になったつもりで台詞を言ったり、パネルシアターを操作したりすることができる。 ③進んで登場人物やその動作、気持ちを考えて発表したり、読み取った内容を自分からパネルシアターの活動に活かそうとしたりしている。
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する際の手掛かりとして、絵本に出てくる言葉をカードにした言葉カードを提示し、選択しながら進めていくようにする。</li> <li>・台詞を平仮名と合わせて口の動きのイラストと一緒に提示することで、自信をもって登場人物を演じられるようにする。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

#### ①絵本に出てくる言葉の意味が分かり、場面の様子に気づいている。【知識・技能】



- ・「くまさんは、どのくらいのおいもをとったんだろうね。」の教師の発問に、両手で身振りをつけながら、「どっさり。」と絵本の言葉で答えた。絵と結び付けながら、様子を表す言葉を動作化して絵本を楽しんでいた。
- ・絵本の場面について、「誰が」「誰に」「何をしたか」「どのくらいのおいもをあげたか」などを考え、言葉カードから当てはまるものを選び、ワークシートを進めていた。

#### ②挿絵を手掛かりに、登場人物やその様子を想像し、登場人物になったつもりで台詞を言ったり、パネルシアターを操作したりしている。【思考・判断・表現】



- ・挿絵と結び付けながら「誰が」「誰に」「何をしたか」「どのくらいのおいもをあげたか」などを自分で考え、考えたことをもとにパネルシアターの動物の絵を動かし、場面の様子を表現していた。
- ・絵本の動物の表情から、さつまいもをもらった動物の気持ちを考え、動物の絵の動かし方や台詞の言い方を工夫して、うれしい気持ちを表そうとしていた。

#### ③進んで登場人物やその動作、気持ちを考えて発表したり、読み取った内容を自分からパネルシアターの活動に活かそうとしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】



- ・考えたことを発表する「はっぴょうタイム」の時には、積極的に手を挙げ、自分で読み取った内容や自分で考えた登場人物の気持ちを進んで発表していた。

### 単元（題材）を振り返って

- 「読むこと」に重点を置いて授業を計画したことで、児童一人一人が読み取りを深め、絵本の内容を楽しみながら動作化することができ、言葉の理解を深めることにつながった。
- Aさんは、絵本の内容と自分が体験したさつまいもの収穫の活動を結び付けながら絵本を読み進めることができた。収穫したさつまいもを見て、絵本の動物たちが「一人で食べてはもったいない。」と言ったように、「僕たちだけで食べてはもったいない。」と話す姿が見られた。
- 読み取りを深めていくことで、登場人物になりきって台詞を言ったりパネルシアターを操作したりすることができるようになるため、評価する時期を考えた目標設定が大切であると感じた。

## 事例③ 小学部 算数科

### 【小学部算数科3段階】D データの活用

ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㊦ ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。

㊧ 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。

(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

㊦ 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	教科別の指導（算数）		
単元（題材）名	表を作ろう		
学部・学級	小学部6年	学習グループ	2名
総時数	8時間		
主な学習活動	身の回りの事象から調べたい題材を見つけて、比較する対象となるキーワードや数量を文字や記号で表に表す。また、表した表から数量を比較して、特徴を読み取る学習活動を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにある事象を、簡単な記号に置き換えて表に表し、比較して読み取ることができる。</li> </ul> [小・算数科3段階Dア（ア）㊦㊧]	<ul style="list-style-type: none"> <li>個数の把握や比較のために、簡単な絵や図に置き換えて表したり、データ数を記号で表現したりすることができる。</li> </ul> [小・算数科3段階Dア（イ）㊦]	<ul style="list-style-type: none"> <li>表に表す良さに気づき、身の回りの事象に関心をもって数を数えたり、比較したりしようとしている。</li> </ul>

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 表について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>バラバラに配置されたそれぞれ個数の異なる形を見て、数量の予想を立てる。</li> <li>数量を比較する方法を考える。</li> <li>「表」の意味を知る。</li> </ul>	1	○関心をもって進んで表に表そうとすることができるように、校舎内から自分で題材を見つける活動を設定する。 ○自分や友達の気づきを共有することができるように、表に表して気が付いたことをお互いに説明し合う場面を作る。 ○表から数量を比較して多少や同等などの特徴を読み取る場面では、個数や整理した記号の長さに着目して考えることができるように紙テープなどを活用したり、適宜言葉かけをしたりする。 ○どんな題材で表を作り、表からどんなことが読み取れたのかなど、学習を振り返ることができるように、毎時間前時の学習を思い出しながら発言する時間を設定する。
2 調べたい題材を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあることや身の回りから調べてみたい事象を考える。</li> </ul>	1	
3 表に表して特徴を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>調べたい題材について、それぞれの数量を予想する。</li> <li>表に文字や記号で表す。</li> <li>数量を比較しながら特徴を読み取り、説明する。</li> </ul>	4	
4 グラフについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>前時まで作成した表を、縦書きにしたり、棒線で表したりする。</li> <li>「グラフ」の意味を知る。</li> </ul>	2	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	<p>多少や同等などの数量関係は分かるが、比較し「○番目に～」のような順序の問題については、その意味を理解するところにつまずきが見られる。100までの数について個数を数えることはできるが、数の大小を比較することについては、つまずきが見られる。また、自分の考えを発表する場面では、友達の考えを聞いて共感し、同じ発言をすることが多い。</p>
個別の指導目標	<p>①身の回りにある事象を簡単な記号に置き換えて表し、ヒントなどの手がかりをもとに比較して読み取ることができる。</p> <p>②個数の把握や比較のために簡単な絵や図に置き換えて表したり、データ数を記号で表現したりすることができる。</p> <p>③表に表すよさに気付き、身の回りの事象に関心をもって数を数えたり、比較したりしようとしている。</p>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の大小を比較する手がかりとなるように、視覚的なヒントを提示する。</li> <li>学習内容から意識が逸れている様子が見られた時には、今取り組むべきことを具体的に伝える。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

①身の回りにある事象を簡単な記号に置き換えて表し、ヒントなどの手がかりをもとに比較して読み取ろうとしている。【知識・技能】



- ・個数を数えたり、整理した記号の長さに着目したりするよう言葉かけをすると、「1番多いのは～」「1番少ないのは～」「○○と△△を比べると～」など表から比較し、読み取っていた。
- ・比較対象が多い時には、整理した記号の上からその長さ分全てに色を塗ったり、紙テープを使ってその長さ分に切ったりしたことで、多少や同等を比較し読み取っていた。

②個数の把握や比較のために簡単な絵や図に置き換えて表したり、データ数を記号で表現したりしている。

【思考・判断・表現】



- ・その日調べる題材により、表したい記号などを選択したり、自分で考えたりして表現していた。
- ・調べたい題材について、「どれが多いのかな。」「数えてみよう。」などと言って、目的意識をもちながら友達と一緒に簡単な絵や図に置き換えたり、データ数を記号で表現したりしていた。

③表に表すよさに気付き、身の回りの事象に関心をもって数を数えたり、比較したりしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・その日調べる題材について「楽しみ。」「わくわく。」などと言って関心をもって数を数えたり、比較をしたりしていた。
- ・数量を比較する際に「表にすると見やすい。」と言って表に表すよさに気付いていた。

### 単元（題材）を振り返って

○調べたい題材を見つけるために校舎内を歩き回り、身の回りの事象から見つけたことで、題材に関心をもって表に表す学習に取り組むことができたと考え。

○表の枠線の太さに変化をつけたり、児童が実際に表に書き表すペンの濃さなどを工夫したりすることで、児童にとってより「見やすい」表を作ることができたのではないかと考える。

事例提供：福島県立富岡支援学校（鈴木 奈緒）

## 事例④ 小学部 図画工作科

### 【小学部図画工作科2段階】A 表現

ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。

(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（生活単元学習）		
単元（題材）名	ミニ運動会をがんばろう		
学部・学級	小学部5・6年	学習グループ	5名
総時数	13時間（生活6、国語1、図画工作5、体育1）		
主な学習活動	「ミニ運動会」に向けて、応援グッズをつくるために、材料を買いに行き、買ってきた材料等で自分がイメージする応援グッズや衣装等を作成し、ミニ運動会への意欲を高め、成し遂げていく学習活動を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>材料を切ったり、はったり、かいたりして、応援グッズや学級旗を作ることができる。</li> </ul> [小・図画工作科2段階Aア(イ)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料の特徴に気付き、運動会に関わる道具を教師と一緒に作り、表したいことを思い付いたり、作品の面白さや楽しさを感じ取ったりすることができる。</li> </ul> [小・図画工作科2段階Aア(ア)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ運動会に関わる道具作りをしながら、つくり出す喜びを感じようとする。</li> </ul>

※各教科等を合わせた指導でこの他に取り扱いしている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 ミニ運動会までの学習の予定を知る。 ・学習の流れについて知る。	1	○「ぬる」「はる」「入れる」などの表現方法の違った見本品（応援グッズ）を提示し、作成したい応援グッズをイメージすることができるようにする。 ○カラーテープやカラーセロハンなど、表現方法に適した材料を数種類、多数用意し、使用したい材料を自分で選ぶことができるようにする。 ○自分の作品や材料を入れる箱を準備し、自分のものという意識をもつことができるようにする。 ○学習者全員が取り扱う材料をペットボトルとすることで、素材が同じでも人によって完成品が違うことに気づき、自分や友達の作品に価値を見いだすことができるようにする。
2 材料を買いに行く。 ・買い物計画を立て、材料を買いに行く。	5	
3 運動会に関する道具を作る。 ・衣装、応援グッズ、学級旗などを作る。	5	
4 ミニ運動会をがんばろう会をする。 ・これまでの学習を振り返り、運動会への意欲を喚起する。	1	
5 ミニ運動会を振り返る。 ・運動会を振り返り、感想を発表する。	1	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	<p>クーピーやクレヨンで色をぬること、シールやテープではることは一人で行うことができる。</p> <p>自分の意思で物事を決めることができる。決めたことは最後まで貫こうとする。</p> <p>自分の作品が完成したり、自分の作品がほめられたりすると喜びを声で表現する。</p>
個別の指導目標	<p>①教師の支援を受けながら、いろいろな表現方法を試すことができる。</p> <p>②見本を参考にしたり試作したりして、自分の表現方法を定めることができる。</p> <p>③自分の作品や友達の作品の良さに気付こうとする。</p>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージをもち、試作できるように、材料を数多く準備する。</li> <li>・言葉掛けをするなどして、すべての材料に触れる機会をつくる。</li> <li>・見本を見たり、触ったりする機会を設け、表現方法の違いに気付くことができるようにしていく。</li> <li>・それぞれの作品のよさを実感できるように、見せる位置、触れる時間等を考慮する。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

#### ①教師の支援を受けながら、いろいろな表現方法を試している。【知識・技能】



- ・手本を見て、モールをねじりハートなどの好きな形に変えてペットボトルの中に入れることができていた。
- ・手本を見て、ぬる活動にじっくりと取り組むことができた。
- ・「ぬる、はる、入れる」の試作を通して、3つの表現方法を試すことができていた。

#### ②見本を参考にしたり試作したりして、自分の表現方法を決めている。【思考・判断・表現】



- ・「ぬる」活動、「入れる」活動と自分で順序を考え、表現方法を定めることができていた。
- ・「ぬる、はる、入れる」の試作を通して、ぬる活動に興味を示し、細かい部分までぬるなどじっくり取り組むことができていた。
- ・モールをねじって形を作ったり、マジックで色をぬったりして集中して表現することができていた。

#### ③自分の作品や友達の作品の良さに気付こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



- ・自分でぬったマラカス（ペットボトル）を窓からの光に当て、透かして「きれい。」と言葉にすることができていた。
- ・自分で作った二つのマラカスを持って、両手で振って音を確認していた。
- ・マラカスを持って、バイオリンを弾くように動かすなど、1つの作品から新しい発想へつなげることができていた。

### 単元（題材）を振り返って

- いろいろな表現方法を教師と一緒に一つ一つ試すことで、作ること（表現すること）への意欲を高めるとともに、自分で表現したい方法を定めることができた。
- 応援マラカスを作る過程で、ペットボトルの中に入れた鈴の音を鳴らして音を楽しんだり、ピンクにぬったペットボトルを光に当てて見たりして、自分の作品のよさを試す様子が見られた。
- ミニ運動会では、児童それぞれが作った応援マラカスを振ったり、叩いて音を出したりして、元気に応援する姿が見られ、マラカスを使って応援することの楽しさや自分のマラカスへの愛着が感じられた。
- シールやマスキングテープをはる活動では、シールがはがしづらかったり、テープの長さ調整が難しかったりし、作業に困難さがみられた。ねらいとする活動や期待する活動に応じて、できる環境づくりの工夫をしたり、実態に応じて活動経験を積み重ねたりするなどの計画的な指導が必要であった。

事例提供：福島県立たむら支援学校（蛭田 郁）

## 事例⑤ 中学部 国語科

### 【中学部国語科 1 段階】

〔知識及び技能〕ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(イ) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。

〔思考力・判断力・表現力等〕A 聞くこと・話すこと

ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。

イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	教科別の指導（国語）		
単元（題材）名	漫才をしよう		
学部・学級	中学部 2 年	学習グループ	4 名
総時数	15 時間		
主な学習活動	テレビなどで視聴する「漫才」の型を参考に、生徒同士でペアを組み、漫才の台本を考え発表する。自分たちが経験したことを盛り込んで台本を書く、台本の読み合わせをする、お互いの良いところや改善点を出し合うといった学習活動を通して、伝えたい事柄をまとめ、相手にわかりやすく伝える力を高める。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な教師や友達とのやり取りを通して、言葉には経験したことを伝える働きや他者との言葉のやり取りの楽しさがあることに気付くことができる。</li> </ul> [中・国語科 1 段階ア（ア）]	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことから伝えたい事柄を選び、話す内容を整理して台本にまとめ、発表の仕方を工夫して聞き手に分かりやすく伝えることができる。</li> </ul> [中・国語科 1 段階Aイ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がもつよさに気付くとともに、経験したことを整理して考え、伝えたい事柄をまとめたり、聞き手に伝えたりしようとする。</li> </ul>

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 漫才を観よう ・漫才の映像を視聴する。 ・好きな漫才を選ぶ。	1	○映像を複数用意して、イメージを膨らませ好きな漫才を選べるようにする。 ○自分の経験を文章にまとめられるように、型として既成の漫才のネタを用いる。
2 漫才をしよう I ・台本の読み合わせをする。 ・漫才をする。 ・漫才の発表を振り返る。	5	○イラストを交えて場面ごとに解説を加えることで、情景や登場人物の心情をイメージしながら取り組めるようにする。
3 台本をつくろう ・伝えたい事柄を考える。	5	○台本の読み合わせでは、言葉の意味や文章のつながりなどを教師や友達と一緒に確認し合えるようにする。
4 漫才をしよう II（創作編） ・台本の読み合わせをする。 ・漫才をする。 ・お互いの良いところ、改善点を考える。 ・伝え方を工夫し漫才をする。	4	○練習や発表の様子を生徒自身が撮影して観ることで、発声の仕方や声の大きさなどを自分で振り返ることができるようにする。 ○生徒が自ら経験したことなどを台本に盛り込むことで、活動への意欲を高める。 ○生徒の実態に応じて内容の精選や文章量の調整をする。 ○お互いの良いところや改善点を出し合うことで発表の仕方を工夫できるようにする。

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	<p>学校では教師とのかかわりが中心であり、日常生活で大人とのかかわることが多く、友達同士でかかわることが少ない。</p> <p>友達同士で話をする際に、相手の目を見て話すことが難しいことが多い。</p> <p>教師と話をする際に、友達と話するような言葉遣いになりがちである。</p> <p>助詞の理解が不十分であり、文章を書いたり読み取ったりすることが難しい。</p>
個別の指導目標	<p>①相手の話を理解して、適切な言葉を返すことができる。</p> <p>②内容の大体が伝わるように伝える順序などを考えて話すことができる。</p> <p>③友達とのやり取りを楽しみながら漫才をしようとする。</p>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漫才を演じる際のポイントを「相手の目を見て話すこと」「正しい台詞を言うこと」の二つに絞り、プリントに視写する活動を取り入れることで、ポイントを意識して相手とのやり取りができるようにする。</li> <li>自信をもって相手に適切な言葉を返すことができるように、次の台詞を思い出すためのヒントとして、大きめの文字の台本を準備し、適宜提示する。</li> <li>自分や友達の漫才の良かったところや改善点を書いたり、友達に伝えたりできるように、選択式で記入できるプリントを準備する。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

#### ①相手の話を理解して、適切な言葉を返している。【知識・技能】



- ・台本の文章を理解し、助詞の正しい使い方に気を付けながら台詞を話していた。
- ・台詞の一つ一つをはっきりと話していた。
- ・相手の台詞をよく聞き、台詞が終わってから自分が話すようにするといった「やりとりのルール」を守り、漫才としての間をもったやりとりができていた。

#### ②内容の大体が伝わるように伝える順序などを考えて話している。【思考・判断・表現】



- ・台詞の意味に合わせた動作やポーズを自分で考え、表現することで、ストーリーをより詳しく伝えていた。
- ・読み合わせの途中で台詞が抜けてしまった際に、相手からの指摘を受け止め、すぐに台詞を言い直すことができた。

#### ③友達とのやり取りを楽しみながら漫才をしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・台本の内容や台詞について、友達と意見を出し合いながら決めていた。
- ・相手とのやり取りを楽しみながら、相手の台詞に対してテンポ良く自分の台詞を返していた。
- ・演技の最中に思いついた動作をアドリブで披露したことなど、良かった点及び改善点について自分で感じたことを積極的に友達や教師に伝えていた。
- ・毎回反省を行い、自分の演技構成を改善しようとする姿がみられた。

### 単元（題材）を振り返って

- 生徒たちが楽しく積極的に会話をすることができる雰囲気作りが重要であると感じた。
- 練習では漫才の演技をタブレット端末で録画し、演技後すぐに振り返るようにしたことで、生徒自身の気付きをより深めることができた。また、振り返りの後、すぐに練習時間を設けたことで、反省点をスムーズに演技へ反映させることができた。
- 大きめの文字の台本を用意し提示したことで自信をもって演技する姿がみられた反面、自分の台詞だけを書いてあるようにすることで、自分が話す時だけでなく相手からの話を聞く時にも「相手に視線を向けよう」という意識をより高められることにつながるのではないかと感じた。

## 事例⑥ 中学部 理科

【中学部理科1段階】C 物質・エネルギー イ 風やゴムの力の働き

(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

- ㊦ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わる。
- ㊧ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わる。

(イ) 風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（生活単元学習）		
単元（題材）名	風やゴムの力で動くおもちゃをつくらう		
学部・学級	中学部3年	学習グループ	4名
総時数	13時間（国語2、数学1、理科10）		
主な学習活動	ウインドカーや風車、紙コップロケットなどを作り、風やゴムの力で物が動くことを知る。 風やゴムの力の大きさを変えて、物の動き方の変化に気付かせる学習活動を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・風やゴムの力で物が動かすことができることに気付き、力の強弱によって物の動き方が変わることがわかる。</li> </ul> <p>[中・理科1段階Cイ（ア）]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力の強弱による、物の動き方の差異点や共通点について、予想したり、実験したりして、確かめることができる。</li> </ul> <p>[中・理科1段階Cイ（イ）]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風やゴムを動力にしたおもちゃを進んで動かし、力の働きについて知ろうとしている。</li> </ul>

※各教科等を合わせた指導でこの他に取り扱いしている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 風の力で物が動く映像を鑑賞する。 ・こいのぼり、ススキが風で動く様子を観察し、気付いたことをまとめる。	1	○風の強弱による物の動き方の違いに気づくことができるように、大小様々なうちわやサーキュレーターを用いる。
2 風の力で動くおもちゃを制作する。 ・ウインドカー作り ・風車作り	4	○風やゴムの力で動くおもちゃを作って、遊ぶ時間を設定することで、友達同士でコミュニケーションをとったり、工夫したりしながら、活動に取り組めるようにする。
3 プロペラやウインドカーを使った実験をする。 ・プロペラの大小による力の強さを比較する。 ・ウインドカーにあてる風の強弱での動き方の比較をする。	2	○実験など体験的な活動を取り入れ、結果を予想したり、意見を発表したりする場面を設定する。
4 ゴムの力で物が動く映像を鑑賞する。	1	○気づいたことや学んだことを振り返ることができるように、ワークシートに記述したり、模造紙にまとめたりする。
5 ゴムの力で動くおもちゃを制作する。	4	
6 模造紙にまとめる。 ・活動の振り返り	1	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	言葉によるやり取りが可能であるが、自分の考えや意見を求めると、答えるまでに時間を要することがある。活動内容に見通しがもてると、進んで学習に取り組むことができる。扇風機の風でプリントが飛んだ時に、「強」から「弱」にするのではなく、運転を停止させていることがあった。
個別の指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①風やゴムの力を利用して、おもちゃを動かすことができる。</li> <li>②おもちゃの動き方を予想して、風やゴムの力を大きくしたり、小さくしたりすることができる。</li> <li>③進んでおもちゃを制作したり、動かしたりしようとする。</li> </ul>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や映像など、視覚的な手掛かりを見て、風やゴムの力で物が動く様子が理解できるようにする。</li> <li>・おもちゃで遊ぶ時間を設けることで、教師とだけでなく友達と対話しながら取り組むことができるようにする。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

#### ①風やゴムの力を利用して、おもちゃを動かしている。【知識・技能】



- ・ウインドカーが進まず苦戦していたが、風の当て方を説明すると、風受けに風が当たるように、うちわの仰ぐ角度を変えて動かした。
- ・ゴムの反発力で飛ぶ飛行機のおもちゃでは、仕組みを理解して上手に飛ばしていた。

#### ②おもちゃの動き方を予想して、風やゴムの力を大きくしたり、小さくしたりしている。【思考・判断・表現】



- ・ウインドカーを速く走らせるために、うちわを早く動かして勢いよく仰いでいた。
- ・ゴムの反発力で飛ぶ飛行機のおもちゃでは、目標物に向かってゴムを強く引っ張ったり、弛めたりして、力を調整しながら飛ばしていた。

#### ③進んでおもちゃを制作したり、動かしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・手順表を見ながら、ウインドカー作りに取り組んでいた。装飾をつけて、オリジナリティをだしていた。
- ・ペットボトル風車を扇風機にあてて回したり、風の強さを変えたりして動かしていた。

### 単元（題材）を振り返って

- ウインドカーを走らせる際に、大きさの違ううちわやサーキュレーターを準備したり、ウインドカーの重量を変えたりしたことで、力の大きさや重さで物の動き方が変わること気付くことができたと思う。
- 作ったおもちゃで目一杯遊ぶ時間を設けたことで、友達のやり方を見たり、自分なりに工夫して動かしたりして、おもちゃの動きを予想する力に結び付いたのではないかと考える。
- おもちゃの動きは予想することができるようになったが、日常生活の中で学んだことを生かせるようなしかけや工夫などを考えていきたい。

## 事例⑦ 中学部 保健体育科

### 【中学部保健体育科1段階】A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。
- イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
- ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（日常生活の指導）		
単元（題材）名	「あぶスポタイム」で仲間と一緒に元気な体をつくろう		
学部・学級	中学部1年～3年	学習グループ	19名
総時数	50時間（数学3、保健体育42、職業・家庭5）		
主な学習活動	中学部全員が縦割り3グループに分かれて運動する「あぶスポタイム」を毎日1時間目（15分間）に設定し、活動する。晴天時には校庭でのマラソン、雨天時には室内でのストレッチや筋力トレーニングなどを行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体力やペースを理解して、継続して運動することができる。</li> </ul> [中・保健体育科1段階Aア]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して運動する中で自らの課題を見つけ、その解決について考えることができる。</li> </ul> [中・保健体育科1段階Aイ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、最後まで楽しく取り組もうとしている。</li> </ul> [中・保健体育科1段階Aウ]

※各教科等を合わせた指導でこの他に扱っている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
年間を通して実施・天候等により順序を変更する		<ul style="list-style-type: none"> <li>○筋力トレーニングやストレッチの動きを発表する機会を設定し、称賛されることを通して学習への意欲がもてるようにする。</li> <li>○自分の動きを動画に撮影して振り返ることで、視覚的に自分の体の動きを捉え、改善できるようにする。</li> <li>○走った周回数や腕立て伏せの回数などを、シールを貼るなどして記録することで、自分のがんばりに自信をもち、次の活動への意欲づけとする。</li> <li>○自分のそれまでの成果と最初に立てた目標をグラフ等にして視覚的に見比べる。それを定期的に行い、自分に適した目標を理解できるようにする。</li> </ul>
「毎日走ろう」 ・目標を決め、毎日達成することができる。	30	
「正しいフォームを知ろう」 ・動画で自分の走り方を見返し、改善しようとする ことができる。	2	
「汗の始末」 ・体の拭き方などを知ることができる。	2	
「ストレッチの仕方を知ろう」 「筋力をつけよう」 ・正しいやり方を知り、自分の目標値を知ることができる。	10	
「振り返ろう」 ・自分の目標を振り返り、将来の生活を見通しながら、自分に必要な目標を再設定することができる。	3	
「動画に合わせて体をうごかそう」 ・動画を見て体を動かすことができる。	3	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	身体を動かすことは好きだが、BMI が適正基準を超えており、継続的な運動を苦手としている。諦めが早いところがあり、集団で走ってもすぐに遅れてしまう。ストレッチや筋力トレーニングなどは先頭に立って行い、友達の前で発表することを楽しみにしている。
個別の指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分で決めた目標を意識し、毎回達成できるように運動することができる。</li> <li>②健康な生活を送るために自分の適性体重を知り、それに近づけるために必要なことやきまりを考慮することができる。</li> <li>③体ほぐしの運動や体の動きを高める運動が健康な生活につながるということがわかり、最後まで楽しく取り組むことができる。</li> </ul>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重測定を定期的に行い、グラフにして「見える化」することで、運動の成果や体重の推移を本人にわかりやすく提示し、意欲を継続できるようにする。</li> <li>・ひざの痛みや継続して運動することが難しい原因などを本人と考え、納得して活動に取り組めるようにする。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

#### ①自分で決めた目標を意識し、毎回達成できるように運動している。【知識・技能】



- ・校庭では5周走を目標と設定した。疲れてくると、「もういいです。」「あきらめます。」などとすぐに休みたがる傾向にあったが、学年キャプテンとなり、仲間と一緒に継続して運動することで、決められた時間内で、継続して走る・運動する意識と体力が身についた。
- ・室内での体づくり運動では、ストレッチや腕立て・腹筋・スクワットなどを様々なやり方で、生徒同士で競わせながら行った。教師が鍛えている筋肉を触って伝えることで、身体のだの部分を鍛える運動なのかを理解しながら取り組めるようになった。

#### ②健康な生活を送るために自分の適性体重を知り、それに近づけるために必要なことやきまりを考えている。

【思考・判断・表現】



- ・月1回体重測定を行い、自分と同じ体重の人の写真と比較して自己理解を促した。学級内で体重を減らす方法を教師と考えた。
- ・体重が増えることで健康に悪影響が出ることを、動画を観ながら学習し、体重をどうしたらよいか考えることができた。
- ・グループで運動を続けてきたことで、友達の様子を見て「同じようにしてみよう。」「ああすればいいんだ。」と自分から改善しようとすることができた。

#### ③体ほぐしの運動や体の動きを高める運動が健康な生活につながるということがわかり、最後まで楽しく取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・筋肉をつけることで痩せやすい体になることを知ったり、適正な体重に近づけることのメリットを学習したりすることで、集団の一番前で意欲的に運動に取り組むようになった。
- ・給食のおかわりを控えたり、よく噛んで食べたりすることを意識できるようになってきた。
- ・運動に対しては苦手意識があったが、学年のキャプテンとなり、友達に認められるために自ら先頭に立って運動に取り組めるようになった。

### 単元(題材)を振り返って

- 「あぶスポタイム」で仲間と一緒に元気な体をつくろう、という単元名のとおり、集団で継続して取り組んだ結果、運動の習慣化、体力・走力の向上、集団行動、リーダーシップ、汗の始末など、多くの面で成長が見られた。
- 学年のキャプテンとなったことで、自分はどのように行動し、友達にどのように促せばよいのかを考えながら行動することができるようになってきた。
- 前半は教師主導の場面も多かったが、キャプテン制を導入することで、生徒主体の活動となった。また、他の生徒と着用するピブスの色を替えることで、意欲の高まりが見られた。その結果、仲間や教師に認められるためにはどうしたらよいかを考え、実践しようとする態度が育ってきた。
- 継続的な運動習慣化を図ることができたが、それが体重減少や肥満解消などの目に見える形での成果につながらなかった。家庭とのさらなる連携が必要だった。

## 事例⑧ 中学部 職業・家庭科

【中学部 職業・家庭科1段階】 職業分野 A 職業生活 イ 職業

職業に関わる事項について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。

- ㊦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。
- ㊧ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。
- ㊨ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。

(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。

- ㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。
- ㊧ 作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（作業学習）		
単元（題材）名	リサイクル班の活動に取り組もう		
学部・学級	中学部1・2・3年	学習グループ	11名
総時数	24時間（国語2、社会5、数学2、保健体育1、職業・家庭14）		
主な学習活動	ペットボトルのラベルを剥がしたり潰したりしながら、キャップを集める活動を行う。紙すきの材料となる部分を考えて、牛乳パックをハサミで切り取る活動を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業課題が分かり、自ら道具等の準備や片付けをしたり、集中を持続して作業に取り組んだりすることができる。</li> </ul> <p>[中・職業家庭科1段階Aイ(ア) ㊦㊧㊨]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業工程において、どんな作業と関連しているのか考えたり、安全や衛生の大切さに気付いたりして、自分の課題を意識して活動することを増やすことができる。</li> </ul> <p>[中・職業家庭科1段階Aイ(イ) ㊦㊧]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業課題が分かり、集中を持続して取り組んだり、安全や衛生に気を付けて作業に取り組んだりしようとしている。</li> </ul>

※各教科等を合わせた指導でこの他に扱っている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 リサイクル班の活動内容、活動の有意性を知る。 ・去年の活動を振り返る。 ・ペットボトルや牛乳パックのリサイクルについて考える。	1	○活動内容の確認をしたり、友達の仕事内容を見合ったりする場面を設けて、自分で気付いて改善できるようにする。 ○振り返ることができる視覚教材を使用する。
2 見通しをもって、リサイクル班の活動を行う。 ・使用する道具や活動手順を覚える。 ・ラベルはがし、ペットボトルつぶし等	8	○実態に応じたワークシートを使用し、教師と一緒に個別の目標を考える時間を設定する。 ○作業製品を作る上での「清潔さの重要性」を説明し、手洗いやマスクの着用を行うよう言葉かけする。
3 報告の仕方を身に付ける。 ・報告の仕方を覚える。 ・伝わる報告の仕方を考える。 ・ラベルはがし、ペットボトルつぶし等	6	○目標を意識している姿を称賛し、活動に対して意欲的に作業に取り組むことができるようにする。
4 目標を立てて、リサイクル班の活動を行う。 ・出来高表にシールを貼って、目標を設定する。 ・牛乳パック切り等	8	○日誌に記入された目標達成状況を提示し、自分の課題克服や目標達成への意識が高まるようにする。
5 反省会をする。 ・活動の振り返り ・作業日誌、出来高表の確認	1	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	<p>友達や教師等、他者との関わりが好きであり、友達や教師に自分から挨拶やお礼を言うことができる。一方、音声言語は不明瞭であり、身振りやしぐさでコミュニケーションをとろうとすることがあるため、何を伝えたいのか曖昧な時がある。</p> <p>記憶や注意を維持することに課題があり、やるべきことに優先して取り組んだり、約束を守ることが難しかったりする場合がある。また、様々な方向に意識が向いてしまい、集中して話を聞くことが難しいため、教師が状況に応じて、言葉掛けや指さし等の支援を行っている。</p>
個別の指導目標	<p>①作業課題が分かり、自ら道具等の準備や片付けをしたり、集中を持続して作業に取り組んだりすることができる。</p> <p>②作業工程において、どんな作業と関連しているのか考えたり、安全や衛生の大切さに気付いたりして、自分の課題を意識して活動することを増やすことができる。</p> <p>③作業課題が分かり、集中を持続して取り組んだり、安全や衛生に気を付けて作業に取り組んだりしようとする。</p>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声や身振りでのやり取りに、教師が言葉添えでの支援を加え、自分の気持ちを適切に伝えることができるようにする。</li> <li>・今取り組むべきことや約束等について、教師と確認しながら学習活動を行い、記憶や注意を維持できるようにする。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

①作業課題が分かり、自ら道具等の準備や片付けをしたり、集中を持続して作業に取り組んだりすることができる。【知識・技能】

・教師の話聞いて、作業内容を確認し、一人で準備や片付けを行っていた。また、黒板の掲示を見て、決められた時間（30分～40分）最後まで集中して活動に取り組むことができた。

②作業工程において、どんな作業と関連しているのか考えたり、安全や衛生の大切さに気付いたりして、自分の課題を意識して活動することを増やすことができる。【思考・判断・表現】



・作業工程を覚え、次に取り組む内容が分かり、丁寧に取り組むことができた。また、「手を洗う、マスクをする。」と発言するなど、安全や衛生の大切さに自ら気付くことができた。集団活動への意欲が高く、教師の言葉掛けを聞いたり、周囲の様子に合わせてたりして、自分自身の課題である清潔を保とうとしていた。

③作業課題が分かり、集中を持続して取り組んだり、安全や衛生に気を付けて作業に取り組んだりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



・取り組んだ作業内容等を周囲の教師に伝えるなど、最後まで取り組んでいることを喜んでいる姿が見られた。また、作業中は、教師の言葉掛けがなくても、衛生面に気を付けて活動しようとする姿も見られた。

### 単元（題材）を振り返って

- Aさんは、学習意欲が高く、自分の衛生面に対する課題に気付いている姿が見られている。
- 作業学習だけではなく、日常生活においても自身の課題を意識できるよう、学部内や家庭と指導・支援内容の共通理解を図ることが重要であると考えます。
- 各教科等を合わせた指導では、本校の「単元案」を活用しながら、各教科ごとに目標を立て、具体的に指導内容を考え、詳細な学習評価を行うことができた。今後も各教科の目標を明確にして単元を構成し、一人一人の資質・能力を確実に育成していけるように、日々の授業に励んでいきたい。

## 事例⑨ 高等部 社会科

【中学部社会科1段階】オ 我が国の地理や歴史

(ア) 身近な地域や市区町村（以下「市」という。）の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ㊦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。
- ㊧ 都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	各教科等を合わせた指導（生活単元学習）		
単元（題材）名	身近な市町村について知ろう		
学部・学級	高等部1年	学習グループ	10名
総時数	12時間（国語5、社会7）		
主な学習活動	自分達の住んでいる市町村を含めた、石川町の近隣にある市町村の位置や人口、特産物や観光地などについて調べまとめ、自分の生活と関連付けて考えたり、まとめたことをクイズ形式で発表し、身近な市町村に対する興味・関心を高めたりする学習を行う。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住んでいる市町村の様子が分かり、調べまとめる技能を身に付けることができる。</li> </ul> [中・社会科1段階オ（ア）㊦]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住んでいる市町村の位置や人口、特産物などに着目し、様子を捉え表現することができる。</li> </ul> [中・社会科1段階オ（ア）㊧]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住んでいる市町村に興味・関心をもち、自ら関わろうとする。</li> </ul>

※各教科等を合わせた指導でこの他に扱っている教科の資質・能力については記載を省略しています。

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 学習内容の確認をする。 ・担当する市町村について ・班分けについて	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもって意欲的に学習に取り組めるように、学習計画が記載してあるワークシートを活用したり、目標を記したカードをホワイトボードに掲示したりする。</li> <li>○生徒同士でやりとりができるように、二人一組のグループを作る。</li> <li>○新しい情報を整理しやすいように、調べた項目が発表する順に書かれた穴埋め式のワークシートを準備する。</li> <li>○聞き逃した内容を理解することができるように、相手に質問する時間を設ける。</li> <li>○パンフレットの中から重要な部分を選択できるように、注目できるようなキーワードを提示したり、予め印を付けておいたりする。</li> <li>○自分たちの生活と関連付けて考えられるよう、自宅や駅から近い病院や観光地の場所などが分かるような生活マップを作成する。</li> </ul>
2 パソコンやパンフレットを使って調べ、まとめる。 ・インターネットやパンフレットからの必要な情報の精選の仕方について ・ワープロソフトへのまとめ方について ・まとめた資料の印刷	5	
3 グループごとに調べた内容を発表する。 ・グループごとの発表 ・発表を聞いて聞き取ったことの書き留め	1	
4 まとめたことをクイズにし、発表の練習をする。 ・クイズ作成 ・パワーポイント作成	3	
5 クイズ大会をする。	1	
6 まとめをする。 ・自分達が住んでいる市町村と石川町との比較 ・掲示物作成	1	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	簡単な内容であれば口頭での指示を理解し、指示に従って行動することができる。慣れていない相手に自分から話し掛けることは苦手であるが、慣れた相手であれば自分から話し掛けることができる。自分の思い通りにならないと不安定になることがある。
個別の指導目標	①友達の発表を聞いて各市町村の人口や特産物などの特徴について知ることができる。 ②調べた市町村についての情報を基に、自分が担当した市町村についてのクイズを考えることができる。 ③自分たちが住んでいる市町村に興味・関心をもとうとする。
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	・分からないことを自ら質問することができるように、挙手や声を掛けるタイミングを伝える。

### 観点別学習状況の評価

#### ①友達の発表を聞いて、各市町村の人口や特産物などについての知識を身に付けている。【知識・技能】



・調べる項目を明確にすることで、インターネットやパンフレットを使って人口や特産物などの情報を集め、写真や文章をワープロソフトで整理した。また、具体的な人口の数や特産物が売っている場所を知った。

#### ②自分が調べた市町村についてのクイズを考え、その情報を友達に伝えている。【思考・判断・表現】



・ワープロソフトで整理したものを基に、グループの友達と一緒に人口や就労継続支援B型事業所、特産物についてのクイズを考えた。また、同じグループの友達に、「これで良いか。」など相談しながらクイズを決めていた。

#### ③自分たちが住んでいる市町村に興味・関心をもち、その特徴について調べたりクイズを考えたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

・特に特産物に興味をもち、「ここのジェラートを食べに郡山に行ってみよう。」など、自ら友達に話す様子が見られた。また、面積と人口の関係について他の市町村と比較をし、市は町や村よりも大きく、人口が多いことに気付いた。

### 単元(題材)を振り返って

- Aさんと同じ出身地の生徒がもう一名いるため、本単元では自分が住んでいない市町村について調べることになったが、普段なかなか訪れない郡山市に憧れや興味をもちながら取り組むことができた。また、普段の生活の中で話しやすい生徒とグルーピングすることで、積極的にグループワークに参加する様子が見られた。
- グルーピングについては、積極的に発言をする生徒と寡黙な生徒をペアにすることで自然に話すようになり、授業以外でもその生徒同士で話す機会が増えてきた。
- 自分たちが住んでいる市町村や興味のある市町村について調べること、特産物を知ったり人口の規模などに気付いたりすることができた。また、調べた内容についてグループ対抗でのクイズ大会を開催することで、身近な市町村への興味関心を高めることができた。

事例提供：福島県立石川支援学校（菊原 旺矩、中村 優里）

## 事例⑩ 高等部 職業科

### 【高等部職業科1段階】A 職業生活 イ 職業

職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) ⑦職業生活に必要なとされる実践的な知識及び技能を身に付けること。

(イ) ⑦作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。

### 【単元（題材）の概要】

指導の形態	教科別の指導（職業）		
単元（題材）名	トラブルの原因とその対処法について考えよう～職場編～		
学部・学級	高等部2年	学習グループ	8名
総時数	8時間		
主な学習活動	自分たちがこれまでの就労体験や校内実習で経験したトラブルや先輩たちが現場実習で実際に経験したトラブルなどを例に挙げ、その原因と解決策について考える。		

### 本単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>働く上でのルールやマナー、起こり得るトラブルの原因とその解決方法について理解することができる。</li> </ul> [高・職業科1段階Aイ(ア)⑦]	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場でのトラブルの原因について、自分の考えを述べたり、友達の意見を聞いたりしながら解決策を考えることができる。</li> </ul> [高・職業科1段階Aイ(イ)⑦]	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場でのトラブルの未然防止に向けて、働く上でのルールやマナー、コミュニケーション面での自分自身の課題に気付き、その課題を改善しようとしている。</li> </ul>

### 単元（題材）のデザイン

学習活動・内容	時数	【主体的・対話的で深い学びの実現のために】
1 職場でのルールやマナーについて確認し、事例をもとに考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>職場で守るべきマナーやルールについて考える。</li> <li>いくつかの事例について、友達と意見交換をする。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働く上で守るべきルールやマナーにはどのようなものがあるのか確認できるよう、ワークシートを用いる。</li> <li>○身近な話題として捉えることができるよう、実際に3年生が経験したトラブルなどを事例として取り上げる。</li> </ul>
2 職場（実習先）における仕事面での起こり得るトラブルについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「実習先でのトラブルについて」のアンケートを作成する。（3年生に配付）</li> <li>就労体験や校内実習で自分が経験したトラブルについてまとめる。</li> <li>アンケートの結果や自分の経験をもとに、考えを述べたり友達の意見を聞いたりしながら解決策について考える。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな考え方があることに気付くことができるよう、グループワークを取り入れる。</li> <li>○トラブルの原因や解決策について、生徒同士の考えを整理できるよう、付箋や模造紙等を活用する。</li> <li>○学習した内容を、今後の産業現場等における実習や作業学習の中でどのように生かしていくか考える場面を設定する。</li> </ul>
3 職場（実習先）における人間関係での起こり得るトラブルについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果や自分の経験をもとに、考えを述べたり友達の意見を聞いたりしながら解決策について考える。</li> </ul>	3	

## 【Aさんの学び】

Aさんについて	卒業後の就労に対する意識は高く、職業科の授業に意欲的に取り組んでいる。一方で、学習した内容を実際の生活場面で生かそうとする意識が低く、取り組んだとしても長続きしないことが多い。社会人や職業人として、働く上で守らなければならないルールやマナーについても知識としては理解しているが、衛生面に課題があったり、就労体験や産業現場等における実習などの実際の場面において、その知識を基に行動したりすることは難しい。
個別の指導目標	<p>①働く上でのルールやマナー、起こり得るトラブルの原因とその解決方法について理解することができる。</p> <p>②職場でのトラブルの原因について、自分の考えを述べたり、友達の意見を受け入れたりしながら解決策を考えることができる。</p> <p>③職場でのトラブルの未然防止に向けて、働く上でのルールやマナー、コミュニケーション面での自分自身の課題に気付き、その課題を改善しようとする。</p>
個別の配慮事項 (自立活動との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを整理しやすいように、付箋やワークシートを活用する。</li> <li>グループワークで活動する際に、友達の意見を聞いたり、多様な考え方を受け入れたりすることは大切であることを伝える。</li> </ul>

### 観点別学習状況の評価

①働く上でのルールやマナー、起こり得るトラブルの原因とその解決方法について理解している。

【知識・技能】



- ・社会人としてのルールやマナーにはどのようなものがあるかについて積極的に発言したり、ワークシートにまとめたりした。
- ・事例として挙げられたトラブルの原因と解決策について、自分の考えを付箋に書き出したり、ワークシートにまとめたりした。

②職場でのトラブルの原因について自分の考えを述べたり、友達の意見を受け入れたりしながら解決策を考えている。【思考・判断・表現】



- ・トラブルの原因について自分なりに考えたり、「どうしたら回避できたのか」、「具体的にはどうすれば良かったのか」など、積極的に意見を述べたりした。
- ・グループワークでは、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見に対して共感したりした。また、疑問があれば積極的に質問した。

③職場でのトラブルの未然防止に向けて、働く上でのルールやマナー、コミュニケーション面での自分自身の課題に気付き、その課題を改善しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・働く上での態度面やコミュニケーション面における自身の課題について再認識し、今後の産業現場等における実習では改善しようとする姿が見られた。

### 単元（題材）を振り返って

- 教材として3年生の実体験を取り上げたことで、問題を自分自身のこととして捉えたり、産業現場等における実習へ向けて、自分の課題を整理して目標設定を行ったりすることができた。
- この単元を学習したことで、Aの作業学習に対する態度や教師への言動に変化が見られ、自分自身の課題を意識して改善しようとする姿が見られるようになった。
- 授業で学習したことを実習だけでなく、普段の生活の中でも生かすことができるように、意図的な場面設定や手立てを工夫していきたい。

事例提供：福島県立いわき支援学校（蓬田 真由美）

## おわりに

社会が急速に変化し、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする IoT が広がるなど、新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされています。そして、このような時代がそう遠くない時期に到来することも考えられます。

そのような中、新しい学習指導要領が本年度から小学校及び特別支援学校小学部で全面実施となり、年次毎に中学校・特別支援学校中学部、高等学校・特別支援学校高等部と続きます。それぞれの学校におきましては、「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」などの視点を踏まえた取組が進められていることと思います。

当センターでは、新しい学習指導要領において知的障がいのある児童生徒のための各教科の整理と充実が図られたことを受けて、平成30年度より教育研究「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校の各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～」に取り組み、各学校において新しい学習指導要領の趣旨を踏まえながら日々の各教科の指導が展開できるよう、教育研究を研究協力校10校と進めてまいりました。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、「福島県緊急事態措置」により、令和2年4月16日に学校の一斉臨時休業が要請され、児童生徒は数週間を家庭等で過ごすこととなりました。6月1日から全面解除となり、多くの児童生徒が学校に登校して学べる喜びを、教職員は学校に児童生徒を迎えられる喜びと責任を感じました。学校の「新しい生活様式」に則り、制約はあるものの、創意工夫に溢れた学校生活が営まれています。

そのような状況ではあるものの、研究協力校においては授業実践を重ねていただき、多くの知見を得ることができました。その研究成果を知的障がいのある児童生徒を教育する教員の指導力と専門性の向上につながることを目標に授業づくりのポイントを示すと共に、実践事例集としてまとめました。研究協力校の実践事例については、紙面の限りもあり、十分に紹介できない面もありますが、冊子を手にした先生方の教育課題や実践の充実を図る一助となれば幸いです。

おわりに、本研究の推進に当たり御助言・御協力を賜りました研究協力校及び関係機関の皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。

令和3年2月

福島県特別支援教育センター 所長 杉山裕恵

---

**「知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実」**  
**～授業づくりのポイント&実践事例集～**

令和3年2月25日 発行

発行 福島県特別支援教育センター  
〒963-8041  
福島県郡山市富田町字上ノ台 4-1  
電話 024-952-6497  
F A X 024-952-6599  
e-mail special-center@fcs.ed.jp

---

